

第5回

日本運動器 理学療法学会 学術集会

in 札幌

～テーマ～

「運動器障害をどう捉え、
アプローチするか」

会 期

2017年

9月23日(土) 13時～19時

24日(日) 10時～17時

会 場

札幌市教育文化会館

〔学術集会長〕 対馬 栄輝 (弘前大学)

〔学術副集会長〕 山崎 肇

〔準備委員長〕 石田 和宏 (えにわ病院)

〔主 催〕 日本運動器理学療法学会、徒手理学療法部門、ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門



第5回

日本運動器理学療法学会 学術集会

テーマ 「運動器障害をどう捉え、アプローチするか」

会 期 2017年9月23日(土)・24日(日)

会 場 札幌市教育文化会館

学術集会長 対馬 栄輝 (弘前大学)

主 催 日本運動器理学療法学会、徒手理学療法部門、
ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門

目 次

開 催 趣 意	00
参加者へのお願い	00
座長へのお願い	00
演者へのお願い	00
会場周辺案内図	00
会場案内図	00
日 程 表	00
特別企画プログラム	00
一般口述プログラム	00
ポスタープログラム	00
特 別 講 演	00
シンポジウム	00
モーニングセミナー	00
一般口述 抄録	00
ポスター 抄録	00
第5回 日本運動器理学療法学会学術大会 組織	00

第5回日本運動器理学療法学会学術集会

会長挨拶

運動器障害に対する理学療法は障害を捉える考え方に変遷しており、従来までの運動器疾患を主体とした考え方を、どのように変化・発展させていくかといった概念について話題提供してきた。

本学会では、その後どう展開するべきかについて提案をしたい。具体的には障害部位によるアプローチと、全体障害像に対するアプローチの融合を試みて、今後の運動器理学療法発展のきっかけとするつもりである。

第5回日本運動器理学療法学会学術集会

学術集会長 対馬 栄輝

参加者へのお願い



会員証による会員証明・参加受付・ポイント管理を導入しております。
円滑な参加受付にご理解、ご協力をお願いいたします。

協会会員証（デザイン：緑色）での参加受付となります。

当日は忘れずにお持ちください。

※NICOSカード・楽天カードではありません。

1. 参加登録について

受付場所	日 時
札幌市教育文化会館 1F	9月23日(土) 12時00分～17時30分
	9月24日(日) 09時30分～15時00分

【日本理学療法士協会会員の方】

- ・事前登録をされている方は、事前登録受付へお越しください。
- ・当日登録の会員の方は、会場に備え付けの参加申込書に記入の上、専用の受付窓口にて会員証を提示し、後日請求についての案内用紙を受け取り、受付をお済ませください。

【日本理学療法士協会会員以外の方】

- ・会員以外・学生の方は、受付前の記載台に備え付けてある参加受付用紙に必要事項を記入し、非会員受付にて参加費の支払いをお済ませください。

2. 参加費

区 分	参加費	
会 員	事 前 登 録	8,000円
	当日参加登録	9,000円
	当日デイパス	5,000円
非会員 (当日登録のみ)	非 会 員	11,000円
	学 生	1,000円

※学生とは、医療系養成校在学者を指しますが、理学療法士の資格がある方は該当しません。参加登録時
の際に学生証を提示してください。

3. 生涯学習ポイント

●専門・認定理学療法士履修ポイント

- ・受付で会員証をかざすことにより、大会参加による履修ポイントが取得できます。なお、マイページへの反映は大会終了後となります。
- ・大会終了後2ヶ月経過してもマイページに反映されない場合は、日本理学療法士協会に直接お問い合わせください。
- ・発表による履修ポイント及び座長、査読者のポイント申請は第5回日本運動器理学療法学会学術集会準備委員が代行いたします。

4. クロークサービス

会 場	9月23日(土)	9月24日(日)
札幌市教育文化会館 1F	12時00分～18時50分	09時20分～16時30分

※貴重品、傘のお預かりは出来ませんので、予めご了承ください。

5. 昼食

当日、大会事務局による御弁当の販売はございません。各自でご用意いただくか、施設近隣のレストラン等をご利用ください。

6. 企業・書籍展示

札幌市教育文化会館 1Fにて行います。

7. 会場内の注意

1) ネームカードの携帯について

各会場への入場の際には、必ずネームカードの入ったホルダーを首から下げ、確認できるようにしてください。ネームカードの確認できない方は会場への入場をお断りします。

2) 会場内でのカメラ・ビデオ撮影・録音について

会場内でのカメラ・ビデオ撮影（カメラ付き携帯電話を含む）・録音などは、講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のため禁止させていただきます。

3) 会場内での呼び出し

会場内での呼び出しはできません。

4) 携帯電話の使用について

会場内では必ず電源を切るかマナーモードでご使用ください。

プログラム中の通話は禁止させていただきます。

5) 非常口の確認

緊急・非常時に備えて必ず各自で非常口の確認をお願いいたします。

6) 喫煙について

会場内は終日禁煙です。なお、会場外（正面・東口）に喫煙場所を設定しておりますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

7) 駐車場について

周辺の駐車場が混雑で使用できないことがあります。

来場の際は公共交通機関の利用をお勧めいたします。

座長へのお願い

【口述発表の座長】

1. 参加受付を済ませた後、担当セッション当日に座長受付へお越しください。
2. 発表会場は第1会場大ホール、第2会場小ホールです。座長受付は各会場入口に設置いたします。
3. 担当セッションの開始時刻30分前までに座長受付を済ませ、発表演題関係資料、座長リボンを受け取ってください。また、セッション開始時刻の10分前までに担当セッション会場の「次座長席」にお越しください。
4. 不測の事態にて、座長の職務が遂行不可能であると判断された場合は、速やかに大会本部または座長受付までご連絡ください。
5. 一般演題の発表時間は7分、質疑は3分、症例検討の発表時間は10分、質疑は10分です。座長は担当セッションが円滑に進行するようにご配慮願います。
6. 発表時間終了1分前は黄色ランプで合図し、終了時間は赤ランプで合図いたします。
7. 発表の内容が抄録と大幅に異なる場合は、その場で厳重な注意をしてください。
8. 座長リボンは、セッション終了後に座長受付へご返却ください。

演者へのお願い

口述発表

1. 本大会では、利益相反（Conflict of Interest：COI）に関する開示をお願いいたします。発表スライド中に以下のサイトのフォーマットを参考にCOIの有無について公表してください。利益相反の申告すべき事項と条件については以下のサイトをご覧ください。
「日本理学療法士学会」利益相反（Conflict of Interest：COI）
2. 今大会においては各会場入口にPC受付を設置いたします。発表者は、セッション開始30分前までにPC受付に発表データの入ったメディア（USBフラッシュメモリまたはCD-R）をご持参いただき、所定の機器で試写と動作確認を行ってください。また、開始10分前までには会場左前方の次演者席にお越しください。
3. データを持ち込まれる場合は、事前にデータを作成したPC以外での動作確認、及びウイルススキャンを行ってください。
4. メディアには、当日発表されるデータのみ保存してお持ち込みください。発表データ以外は入れないでください。
5. CD-Rに発表データをコピーする際には、必ずファイナライズ（セッションのクローズ→使用したCDのセッションを閉じる）作業を行ってください。この作業を行わなかった場合、データを作成したPC以外でデータを開くことができなくなり、発表が不可能となりますのでご注意ください。
6. データのファイル名は「演題番号（半角）」、「発表者の氏名（漢字）」の順で名前をつけて保存してください。
例）9999理学太郎.ppt
7. 大会のPCにコピーしたデータは、会期終了後に大会主催者側で責任を持って削除いたします。
8. 受付時に修正や変更作業を行うことはできません。
9. 会場に用意するPCのOSはWindows 7（Microsoft PowerPoint 2007～2016）です。
10. Macintosh版PowerPointや上記バージョン以外で作成したデータは、互換性が損なわれる可能性があります。事前にWindows PCにて文字のずれ等、動作確認を行ってください。
11. 一般演題では動画・音声出力について対応はいたしませんのでご注意ください。静止画像を使用する場合は、JPEG形式としてください。
12. 症例検討では動画を許可いたしますが、トラブルが生じた場合には一切こちらでは責任を負いかねますのでご注意ください。また、音声出力については対応いたしませんのでご注意ください。（いかなる理由であっても発表時間内での終了といたします）
13. 症例検討で動画を使用する場合には、一つのフォルダにPowerPointファイルと動画ファイルを入れ、そのフォルダ内でリンクの作業を行ってください。
14. 発表の内容は抄録と相違ないようにしてください。大幅に異なる場合はその場で座長からの厳重な注意があります。
15. 一般演題の発表時間は7分、質疑は3分、症例検討の発表時間は10分、質疑は10分です。

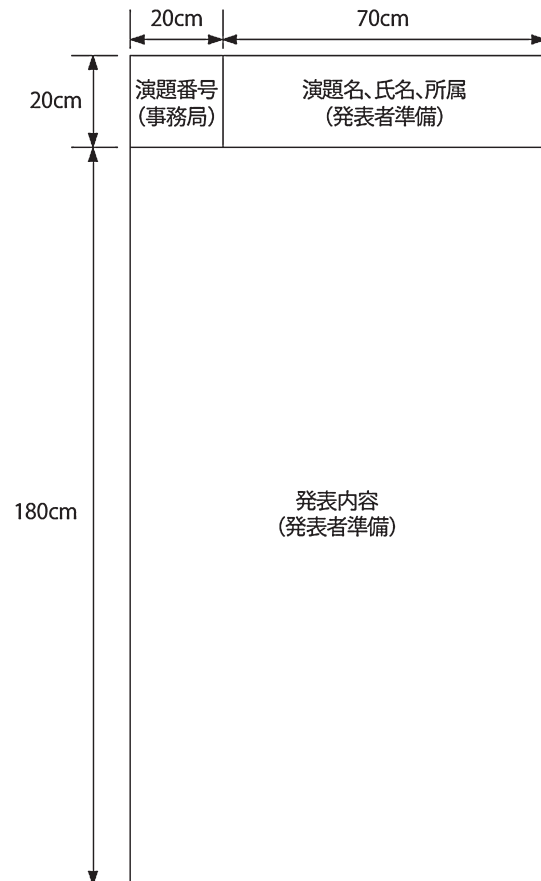
16. スライドの枚数には制限がありませんが、制限時間内に終了するようにしてください。
17. 発表の際には、演台にセットしてあるモニター、マウス、キーボードを使用し、発表者自身で操作してください。大会側で発表スライドの1ページ目を表示いたします。
18. 発表時間終了1分前は黄色ランプで合図し、終了時間は赤ランプで合図いたします。

ポスター発表

1. 本大会では、COIに関する開示をお願いいたします。ポスター中に以下のサイトのフォーマットを参考にCOIの有無について公表してください。利益相反の申告すべき事項と条件については以下のサイトをご覧ください。

「日本理学療法士学会」利益相反（Conflict of Interest：COI）

2. ポスター会場は、第3会場研修室301（予定）、第4会場研修室305（予定）です。ポスター貼付時間内に指定のパネルへポスターを貼付してください。該当するポスターパネルに画鋏と演者リボンを用意いたします。
3. 演者リボンを胸の辺りの見える所に必ず付け、開始時刻10分前に各自のポスター前で待機してください。なお、該当セッション時間中は、その場を離れないようにお願いいたします。
4. ポスター掲示には、ポスターパネルを用意いたします。掲示はパネルの横90cm×縦180cmの範囲とします。パネル左上に演題番号を大会側で用意いたします。その右側に縦20cm×横70cmのサイズで、演題タイトル・演者名・所属を表記してください。
5. ポスターは2～3mの距離からでも十分に分かる大きさの文字で作成してください。
6. 本大会では、座長による進行を行わず自由討論形式をとらせていただきます。該当セッション時間中は、その場を離れないようにお願いいたします。
7. 自由討議の説明の際PCやタブレット端末などを用いていただいても構いません。但し、設置台・電源設備はございません。設置、バッテリーなどの管理について大会側は一切関与いたしませんので、各自の責任でお願いします。
8. ポスターはあらかじめ指定された時間内に指定された場所（ご自身の演題番号のパネル）に貼付してください。



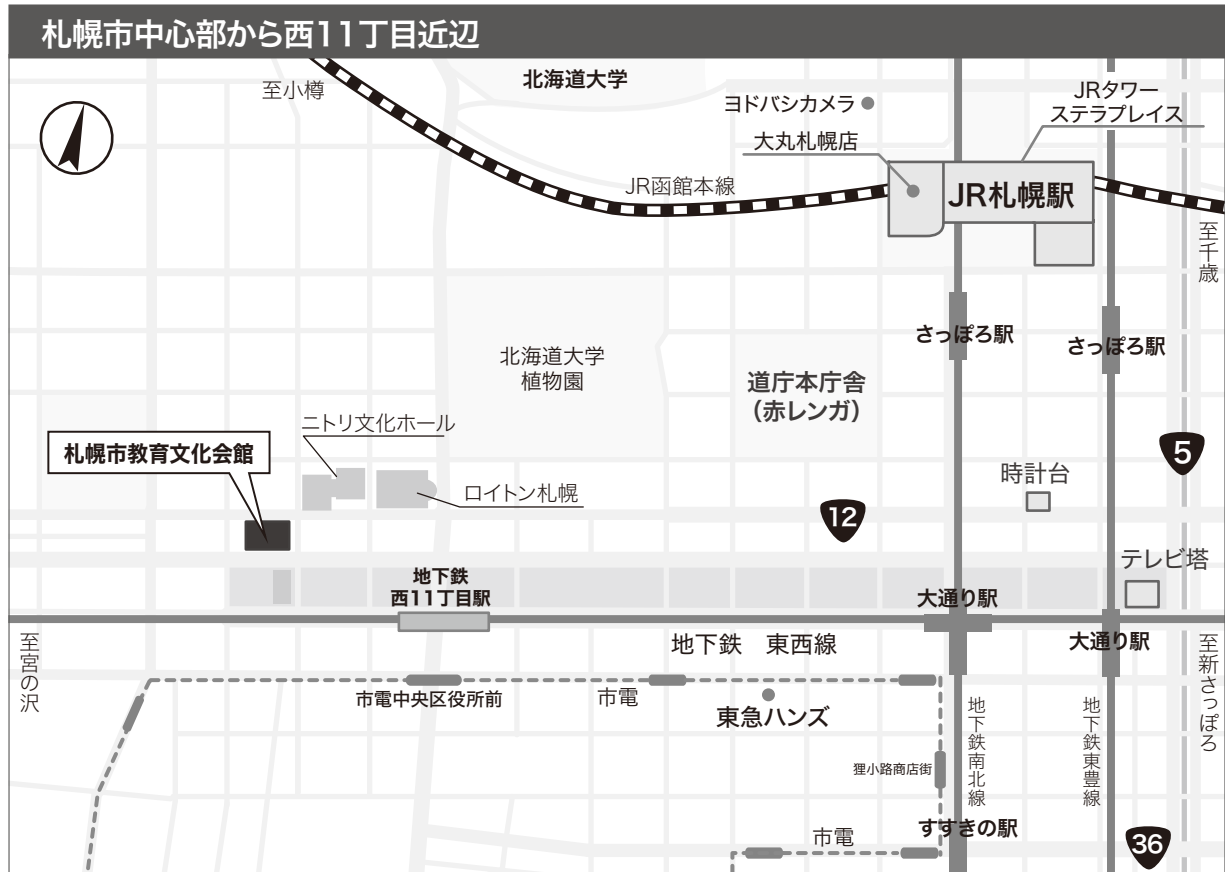
※大会会期中の掲示にご協力くださいますようお願いいたします。なお、9月24日（日）16時以降に撤去されていないポスターは、大会側で責任を持って処分します。

会場周辺案内図

●会 場 札幌市教育文化会館

〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目

電話 011-271-5821 FAX 011-271-1916



■地下鉄でお越しの場合

札幌市営地下鉄東西線「西11丁目」駅、1番出口から徒歩5分

■市電（路面電車）でお越しの場合

市電「西15丁目」停から徒歩10分

■バスでお越しの場合

ジェイ・アール北海道バス、北海道中央バス「北1条西12丁目」から徒歩1分

■札幌駅からお越しの場合

○地下鉄：札幌市営地下鉄南北線「さっぽろ駅」より乗車、「大通駅」にて東西線に乗り換え

○バス：JR札幌駅バスターミナルから、北海道中央バス（円山経由小樽行）、ジェイ・アール北海道バス（小樽行、手稲営業所、手稲鉾山行）に乗車

■お車でお越しの場合

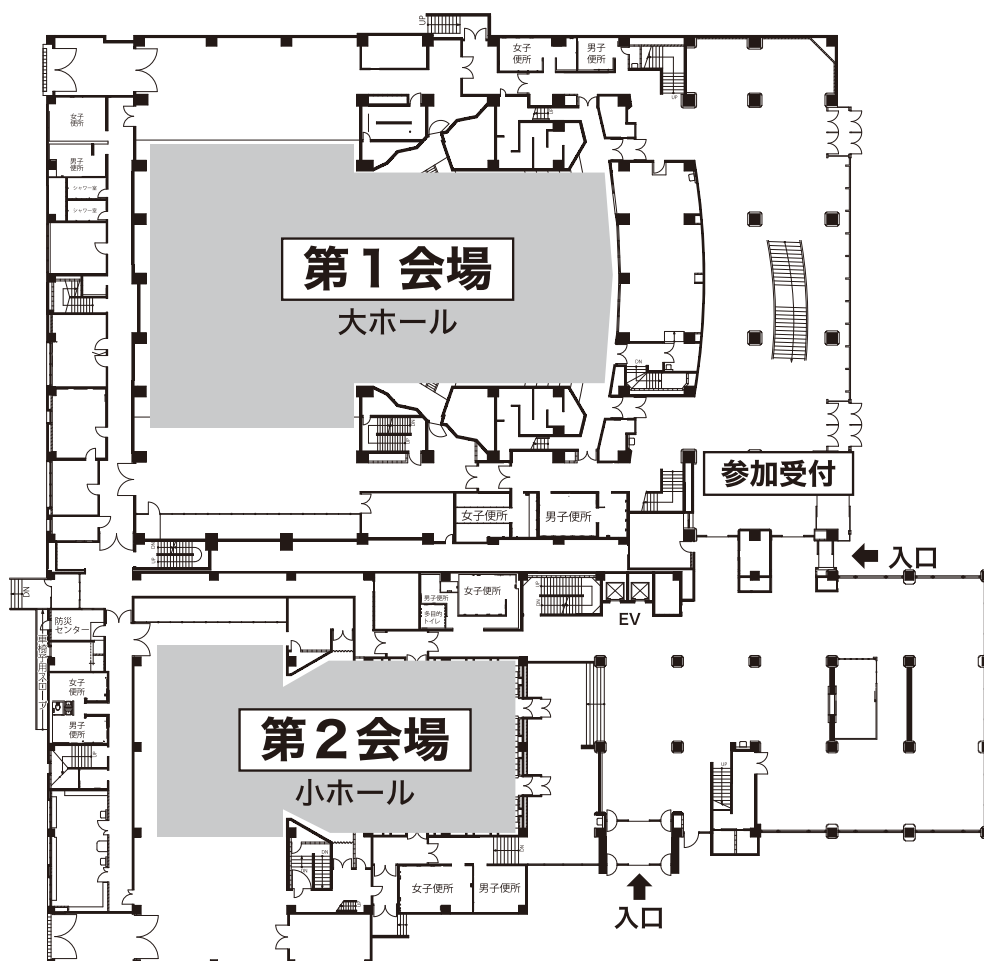
当会館には、お客様用の駐車場がありません。

ご来館の際はお近くの有料駐車場をご利用ください。

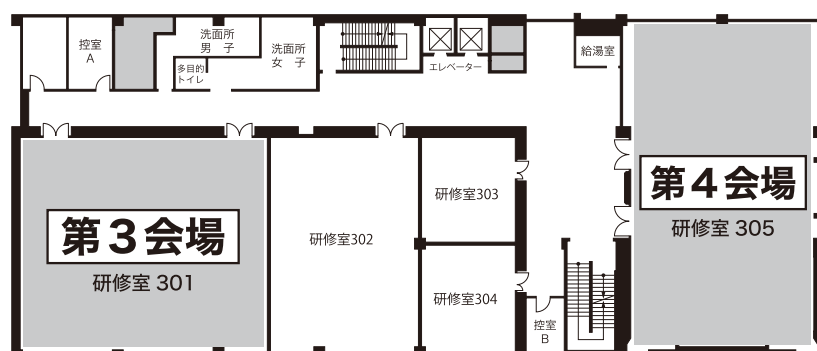
また、ご来館される方が20分まで無料で利用できる契約駐車場もございますので、そちらもご利用ください。

会場案内図

【1階】



【3階】



1 日目 9 月 23 日 土

札幌市教育文化会館				
第 1 会場		第 2 会場	第 3 会場	第 4 会場
大ホール		小ホール	研修室 301	研修室 305
12:00				
13:00	13:00 開会式 13:10 表彰式			
14:00	13:30~14:30 特別講演 I 講師：鈴木重行 司会：対馬栄輝			
15:00	14:40~16:40 シンポジウム 運動器障害に対する 理学療法の評価・アプ ローチ～姿勢・関節・ 筋・神経に着目して～ シンポジスト 講師：赤坂清和 講師：加藤 浩 講師：千葉 恒 司会：木藤伸宏 石田和宏		ポスター掲示	ポスター掲示
16:00				
17:00	16:50~17:50 一般演題 1 (60 分 6 題) 座長：村木孝行 座長：福本貴彦	16:50~17:50 一般演題 2 (60 分 6 題) 座長：金井 章 座長：建内宏重	16:50~17:50 ポスター演題 1 15 演題 座長：坂野裕洋	16:50~17:50 ポスター演題 2 15 演題 座長：立花 孝
18:00	18:00~19:00 一般演題 3 (60 分 6 題) 座長：林 寛 座長：柿崎藤泰	18:00~19:00 症例検討 1 (60 分 3 題) 座長：浅田啓嗣 座長：大内みふか	18:00~19:00 ポスター演題 3 15 演題 座長：田中勇治	18:00~19:00 ポスター演題 4 15 演題 座長：関 公輔
19:00			ポスター撤去	ポスター撤去

2 日 目 9 月 24 日 日

札幌市教育文化会館				
第 1 会場		第 2 会場	第 3 会場	第 4 会場
大ホール		小ホール	研修室 301	研修室 305
10:00	9:50 次期大会長挨拶 10:00~11:00 特別講演Ⅱ 講師：伊藤俊一 司会：山崎 肇		ポスター掲示	ポスター掲示
11:00	11:10~12:10 特別講演Ⅲ 講師：佐伯武士 司会：竹井 仁	11:10~12:10 一般演題 4 (60 分 6 題) 座長：梅原圭二 座長：小林 巧	11:10~12:10 ポスター演題 5 15 演題 座長：春藤健支	11:10~12:10 ポスター演題 6 15 演題 座長：青木一治
12:00				
13:00	13:00~14:00 特別講演Ⅳ 講師：石井美和子 司会：山本綾子	13:00~14:00 症例検討 2 (60 分 3 題) 座長：常盤直孝 座長：加藤邦大	13:00~14:00 ポスター演題 7 15 演題 座長：東 裕一	13:00~14:00 ポスター演題 8 15 演題 座長：神谷晃央
14:00	14:10~15:10 一般演題 5 (60 分 6 題) 座長：永井 聡 座長：山中正紀	14:10~15:10 一般演題 6 (60 分 6 題) 座長：松谷綾子 座長：平元奈津子	14:10~15:10 ポスター演題 9 15 演題 座長：内田茂博	14:10~15:10 ポスター演題 10 15 演題 座長：三浦雅文
15:00	15:20~16:20 一般演題 7 (60 分 6 題) 座長：山本泰雄 座長：白谷智子	15:20~16:20 一般演題 8 (60 分 6 題) 座長：由利 真 座長：嶋田誠一郎	15:20~16:20 ポスター演題 11 11 演題 座長：永井良治	15:20~16:20 ポスター演題 12 10 演題 座長：橋本雅至
16:00	16:20 閉会式		ポスター撤去	ポスター撤去
17:00				

特別企画 プログラム

9月23日(土)

特別講演Ⅰ 13:30～14:30

第1会場(大ホール)

司会：対馬 栄輝

[運動器障害による疼痛に対する理学療法]

鈴木 重行 名古屋大学大学院医学系研究科

シンポジウム 14:40～16:40

第1会場(大ホール)

司会：木藤 伸宏
石田 和宏

[運動器障害に対する理学療法の評価・アプローチ ～姿勢・関節・筋・神経に着目して～]

- 1 赤坂 清和 埼玉医科大学大学院理学療法学
- 2 加藤 浩 九州看護福祉大学大学院
- 3 千葉 恒 北海道社会事業協会 富良野病院 リハビリテーション科

9月24日(日)

特別講演Ⅱ 10:00～11:00

第1会場(大ホール)

司会：山崎 肇

[腰部障害に対する運動療法]

伊藤 俊一 北海道千歳リハビリテーション大学

特別講演Ⅲ 11:10～12:10

第1会場(大ホール)

司会：竹井 仁

[日本スピードスケートナショナルチーム帯同にお けるマニュアルセラピストの役割]

佐伯 武士 株式会社ELT健康増進研究所

特別講演Ⅳ 13:00～14:00

第1会場(大ホール)

司会：山本 綾子

[女性の体幹機能をどう捉え、アプローチするか]

石井美和子 Physiolink

一般演題 プログラム

9月23日(土)

一般演題 1 16:50～17:50

第1会場(大ホール)

座長：村木 孝行
福本 貴彦

O-01 上位胸椎モビライゼーションが頭頸部屈曲運動時の胸鎖乳突筋と頸長筋の筋厚変化に与える影響の検討

○今田 康大¹⁾、大口 翔太¹⁾、大野 智貴¹⁾、田邊 泰雅¹⁾、若林 敏行²⁾

1)目白整形外科内科 リハビリテーション科、2)目白整形外科内科整形外科 整形外科

O-02 MTA理論に基づく触圧覚刺激がスクワットによる伸張痛および膝関節痛に与える影響に関する研究

○高田 治実

帝京科学大学 東京理学療法学科

O-03 足底へのプレーティングが立位動的バランスに及ぼす効果 ～重心動揺計による姿勢安定度評価指標(IPS)を用いて～

○新井 龍一^{1,2)}、青木 健太³⁾、野田 晃貴¹⁾、来間 弘展²⁾

1)八潮中央総合病院、2)首都大学東京、3)岩崎整形外科

O-04 運動直前のマッサージが最大筋力と機能的パフォーマンスに及ぼす即時的効果—システムティックレビュー—

○三根 幸彌¹⁾、迪 雷³⁾、中山 孝^{1,2)}

1)東京工科大学 医療保健学部 理学療法学科、2)南オーストラリア大学 International Centre for Allied Health Evidence、
3)中山大学 リハビリテーション医学科

O-05 肩関節理学療法に対する機能障害分類の現状

○西田 大祐^{1,2)}、亀尾 徹²⁾、久保 雅義²⁾

1)ジャパンケア新潟藤見、2)新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健学専攻

O-06 臨床推論における思考過程の可視化の試み ワークシートの活用について

○永井 豊美¹⁾、古賀 秀作²⁾、那須 千鶴³⁾、江郷 功起⁴⁾

1)Physio Study Kyoto、2)高木病院、3)桜十字病院、4)大牟田市立病院

一般演題 2 16:50～17:50

第2会場(小ホール)

座長：金井 章
建内 宏重

O-07 変形性膝関節症患者の歩き始め動作における運動学的パラメータと力学的エネルギー特性について —重症度別の比較—

○羽田 清貴¹⁾、加藤 浩²⁾、阿南 雅也³⁾、井原 拓哉^{4,5)}、辛嶋 良介⁴⁾、川瀧 眞之¹⁾、川瀧 眞人¹⁾

1)川瀧整形外科病院、2)九州看護福祉大学大学院 看護福祉学研究科 健康支援科学専攻、
3)大分大学 福祉健康科学部 理学療法コース、4)かわしまクリニック、5)広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 博士課程後期

O-08 加齢による歩行時の下肢関節共同運動と協調変動性の変化

○廣濱 賢太^{1,2)}、高野 翔吾¹⁾、浮田 遥草⁴⁾、岩野 巧⁵⁾、木藤 伸宏³⁾

1)広島国際大学大学院 医療福祉科学研究科 医療工学専攻、2)医療法人サカモミの木会 サカ緑井病院 リハビリテーション科、
3)広島国際大学 総合リハビリテーション学部、4)医療法人健真会 山本整形外科 リハビリテーション科、
5)徳島健康生活共同組合 徳島健生病院 リハビリテーション科

O-09 歩行立脚期の過度な膝関節屈曲の原因

～変形性膝関節症による人工膝関節全置換術後症例を対象に～

○前田 健太郎^{1,2)}、尾田 敦²⁾、石川 大瑛²⁾、浦本 史也³⁾、横山 寛子²⁾、伊藤 亮太²⁾、藤林 直樹²⁾、
鹿内 和也²⁾、川村 大介¹⁾

1)かわむら整形外科、2)弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域、3)仁陽会 西岡第一病院

O-10 歩行・走行運動におけるメカニカルストレスを模した周期的圧縮-伸展刺激が軟骨細胞の遺伝子発現に及ぼす影響—培養細胞を用いた基礎的研究—

○野村 将人¹⁾、脇本 祥夫¹⁾、崎谷 直義¹⁾、岩澤 裕之^{1,2)}、小原 雄太¹⁾、島谷 俊亮¹⁾、鈴木 峻太¹⁾、
水野 絵里子¹⁾、森山 英樹³⁾

1)神戸大学大学院保健学研究科、2)聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部、3)神戸大学生命・医学系保健学域

O-11 歩行時の前顔面の動的股関節スティフネスと骨盤運動の関係

○高野 翔吾¹⁾、廣濱 賢太^{1,2)}、木藤 伸宏³⁾

1)広島国際大学 医療福祉科学研究科 医療工学専攻、2)医療法人サカモミの木会 サカ緑井病院、
3)広島国際大学 総合リハビリテーション学部

O-12 固定に誘導される関節拘縮は筋のスティフネスの増加を伴って進行する

○南本 健吾¹⁾、小澤 淳也²⁾、金口 英典³⁾、山岡 薫²⁾

1)広島国際大学医療・福祉科学研究科医療工学専攻、2)広島国際大学総合リハビリテーション学部リハビリテーション学科、
3)森整形外科

一般演題3 18:00～19:00

第1会場（大ホール）

座長：林 寛
柿崎 藤泰

O-13 腿挙げによる腰椎アライメント変化に対する股関節周囲筋の影響

○上原 徹^{1,2)}、対馬 栄輝³⁾、青木 一治⁴⁾、山田 翔太¹⁾、木村 新吾¹⁾、稲田 充⁵⁾

1)名古屋市立西部医療センター、2)弘前大学大学院保健学研究科 博士後期課程、3)弘前大学大学院保健学研究科、
4)名古屋学院大学リハビリテーション学部、5)名古屋市立西部医療センター 脊椎センター

O-14 腹臥位での股関節伸展位保持における多裂筋、最長筋、大殿筋の筋電図積分値について—股関節内転・外転角度変化による検討—

○伊藤 陸^{1,2)}、藤本 将志¹⁾、大沼 俊博^{1,2)}、渡邊 裕文¹⁾、鈴木 俊明²⁾

1)六地蔵総合病院 リハビリテーション科、2)関西医療大学大学院 保健医療学研究科

O-15 寛解期における再発性腰痛者の持ち上げ動作時の体幹筋の活動パターンの変化

○末廣 忠延、石田 弘、小原 謙一、大坂 裕、渡邊 進

川崎医療福祉大学医療技術学部リハビリテーション学科

O-16 胸腰筋膜へのストレッチ前後の移動距離の変化量について—超音波診断装置を用いて—

○鈴木 洋平¹⁾、小山 稔¹⁾、佐藤 裕之²⁾、服部 惣一³⁾

1)亀田クリニック リハビリテーション室、2)亀田リハビリテーション病院 リハビリテーション室、
3)亀田メディカルセンタースポーツ医学科

O-17 腰椎牽引療法の臨床予測ルールは臨床的に意義のある最小変化量によって異なるか？

○平山 和哉^{1,2)}、対馬 栄輝³⁾、有原 裕貴²⁾、近江 洋一²⁾

1) 弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、2) 近江整形外科、3) 弘前大学大学院保健学研究科

O-18 腰椎術後患者における日本語版Lumbar Stiffness Disability Indexの開発 異文化適合プロセスガイドラインに準じた翻訳と暫定版の予備テスト

○古谷 英孝^{1,2)}、伊藤 貴史^{1,2)}、廣幡 健二³⁾、見供 翔⁴⁾、山崎 浩司²⁾、大森 圭太²⁾、星野 雅洋²⁾、
Robert A Hart⁵⁾

1) 苑田第三病院、2) 苑田会東京脊椎脊髄病センター、3) 東京医科歯科大学スポーツ医歯学診療センター、4) 河北総合病院、
5) Swedish Neuroscience Institute

症例検討 1 18:00～19:00

第2会場 (小ホール)

座長：浅田 啓嗣
大内 みふか

C-01 複合性局所疼痛症候群により慢性的な疼痛と歩行障害を呈した一症例

○吉田 亮太、西 亮介

東前橋整形外科クリニック

C-02 膝関節機能障害に対する機能分類による介入 共同的推論により主訴の獲得に至った症例

○市川 崇¹⁾、斎藤 賢一²⁾、亀尾 徹³⁾、久保 雅義³⁾

1) 新潟医療福祉大学大学院 臨床徒手理学療法コース、2) こん整形外科クリニック、3) 新潟医療福祉大学大学院

C-03 前立腺全摘除術後5年が経過した尿失禁患者に対し超音波画像を用い骨盤底筋体操を指導 した一症例

○松永 明子¹⁾、横田 一彦¹⁾、吉田 美香子²⁾、篠田 裕介³⁾、本間 之夫⁵⁾、井川 靖彦³⁾、
芳賀 信彦³⁾

1) 東京大学医学部附属病院 リハビリテーション部、2) 東京大学大学院医学系研究科 社会連携講座イメージング看護学、
3) 東京大学大学院医学系研究科 リハビリテーション医学、4) 東京大学大学院医学系研究科 コンチネンス医学、
5) 日本赤十字社医療センター

9月24日(日)

一般演題 4 11:10～12:10

第2会場 (小ホール)

座長：梅原 圭二
小林 巧

O-19 整形外科受診患者の骨格筋量指標とプレサルコペニアの年齢別割合 ～生体電気インピーダンス法を用いた検討～

○大山 隆人¹⁾、木口 安見¹⁾、杉浦 史郎¹⁾、豊岡 毅¹⁾、西川 悟²⁾

1) 西川整形外科リハビリテーション部、2) 西川整形外科

O-20 ロコモティブシンドロームに関連する運動器の障害と身体機能の検討

○遠藤 達矢¹⁾、小俣 純一^{1,2)}、佐藤 圭汰¹⁾、高橋 諒¹⁾、竹俣 朱莉¹⁾、三浦 拓也¹⁾、鶴見 麻里子¹⁾、
遠藤 浩一¹⁾、白土 修^{1,3)}、対馬 栄輝⁴⁾、伊藤 俊一^{1,5)}

1) 福島県立医科大学会津医療センター リハビリテーション科、2) 福島県立医科大学新医療系学部設置準備室、
3) 福島県立医科大学会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座、4) 弘前大学、5) 北海道千歳リハビリテーション大学

O-21 高齢入院患者における自宅退院時のバランス能力と歩行補助具使用の関連性について
簡易版Berg Balance Scaleを用いた検討

○柴田 寛幸¹⁾、仲澤 一也¹⁾、盛 智子¹⁾、中原 義人²⁾

1)札幌円山整形外科病院、2)聖ヶ丘病院

O-22 足関節脱臼骨折術後症例における急性期の足関節背屈可動域の推移と特徴

○富樫 健太

埼玉医科大学総合医療センター

O-23 リング型創外固定器に対する足底装具の補高が歩行に与える効果

○渡邊 基起¹⁾、野坂 光司²⁾、畠山 和利¹⁾、高橋 裕介¹⁾、須田 智寛¹⁾、斉藤 公男²⁾、松永 俊樹²⁾、
島田 洋一²⁾

1)秋田大学医学部附属病院リハビリテーション科、2)秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科学講座

O-24 陳旧性足関節外側靱帯損傷に対してファイバーテープを使用した補強術を併用した
Broström法の治療経験

—早期スポーツ復帰を目指した術後後療法について—

○大森 章一、永嶋 良太、斎藤 亮太、埴 大樹

医療法人社団 三水会 北千葉整形外科

症例検討 2 13:00 ~ 14:00

第 2 会場 (小ホール)

座長：常盤 直孝
加藤 邦大

C-04 膝関節屈曲時に膝関節前外側部に疼痛を訴える左膝内側半月板損傷の一症例

○相良 繭子¹⁾、工藤 慎太郎²⁾、青山 倫久³⁾、小林 久文¹⁾、竹内 大樹³⁾、澁川 正人⁴⁾

1)佐久平整形外科クリニック AR-Exスポーツメディカルグループ リハビリテーション科、
2)森ノ宮医療大学 保健医療学部 理学療法学科、3)アレックスメディカルリサーチセンター、
4)佐久平整形外科クリニック AR-Exスポーツメディカルグループ 整形外科

C-05 両側THA後に出現した両側外反型coxitis knee に対し、両TKAを施行した症例

○高森 宣行¹⁾、川上 秀夫^{1,2)}、青木 利彦¹⁾、齋藤 佐知子¹⁾、中村 慎也¹⁾、寿 良太¹⁾、三好 祐之¹⁾、
住平 有香¹⁾、秋野 賢一¹⁾、樋川 正直¹⁾

1)一般財団法人 住友病院 リハビリテーション科、2)一般財団法人 住友病院 整形外科

C-06 橈骨遠位端骨折術後患者一症例におけるPronator Quadratus Fatpadの継時的変化
掌側ロッキングプレート固定術後20日から514日の観察結果

○宮下 創

独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

一般演題 5 14:10 ~ 15:10

第 1 会場 (大ホール)

座長：永井 聡
山中 正紀

O-25 2種類の異なるストレッチが肩甲上腕関節内旋可動域低下と肩関節後方タイトネスに及ぼす
即時効果—クロスオーバー無作為化比較試験—

○三根 幸彌

1)東京工科大学医療保健学部理学療法学科、2)南オーストラリア大学 International Centre for Allied Health Evidence

O-26 肩関節周囲炎におけるDisability of the Arm, Shoulder, and Hand標準値作成の試み

○中田 淳一、門脇 克己

やまもと整形外科クリニック

O-27 肩関節下垂位外旋運動における肩甲骨の運動と胸郭運動との関係について

○藤井 尚輝

医療法人社団おると会 浜脇整形外科病院

O-28 人工膝関節全置換術後版Pain coping skills trainingの実施可能性研究

○小森 陽介¹⁾、美崎 定也¹⁾、田中 友也¹⁾、山本 尚史¹⁾、池田 光佑¹⁾、安東 映美¹⁾、高橋 遼¹⁾、
島根 幸依¹⁾、杉本 和隆²⁾

1)苑田会人工関節センター病院 リハビリテーション科、2)苑田会人工関節センター病院 整形外科

O-29 人工膝関節置換術後患者に対する身体活動量遠隔モニタリング
実施可能性研究

○山口 英典、美崎 定也、山本 尚史、大島 理絵、田澤 智央、杉本 和隆

苑田会人工関節センター病院

O-30 膝痛患者に対する患者教育を含む集団療法は3ヶ月後の健康関連Quality Of Lifeを改善させる

○横山 一仁¹⁾、出口 直樹^{1,2)}、井澤 渉太¹⁾、村木 啓人¹⁾、鴛渕 亮一¹⁾、高橋 慶悟¹⁾、野原 英樹¹⁾、
平川 善之¹⁾

1)医療法人博仁会 福岡リハ整形外科クリニック、2)福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科

一般演題 6 14:10 ~ 15:10

第2会場 (小ホール)

座長：松谷 綾子
平元 奈津子

O-31 振動刺激を用いた骨盤底筋群への運動介入が介入後の骨盤底筋群筋活動に与える即時効果

○小宮 諒、浦辺 幸夫、前田 慶明

広島大学大学院医歯薬保健学研究科

O-32 産前指導における妊婦の疼痛状況とピラティス満足度調査

○松田 映美、川崎 亘、日高 尚子、池田 有里、園田 寿美礼、長谷川 美沙、吉田 怜称

千鳥橋病院 リハビリテーション技術部

O-33 産後の骨盤アライメントと分娩所要時間の関連性

○山崎 愛美、善方 裕美

よしかた産婦人科

O-34 泌尿器科骨盤底筋指導外来における個別指導による骨盤底筋トレーニングの短期成績

○熊丸 真理¹⁾、中島 のぶよ²⁾、木下 知子²⁾、三原 薫²⁾、松本 ゆかり²⁾、佐野 博之²⁾、橋田 正徳²⁾、
堤田 義弘²⁾、入江 涼子²⁾

1)専門学校麻生リハビリテーション大学校、2)高山病院

O-35 腹直筋離開が体幹・骨盤底機能に及ぼす影響：システマティックレビュー

○横井 悠加¹⁾、森 明子²⁾、庄本 康治³⁾、Margaret Sherburn⁴⁾

1)城西国際大学、2)兵庫医療大学、3)畿央大学、4)University of Melbourne

O-36 排便時の骨盤に対する仙骨傾斜と肛門直腸角に関する研究
排便造影検査での検討

○槌野 正裕¹⁾、荒川 広宣¹⁾、小林 道弘¹⁾、石井 美里¹⁾、高野 正太²⁾、高野 正博²⁾

1)大腸肛門病センター高野病院 リハビリテーション科、2)大腸肛門病センター高野病院 大腸肛門機能科

一般演題7 15:20～16:20

第1会場 (大ホール)

座長：山本 泰雄
白谷 智子

O-37 大腿骨転子部骨折術後の頸部短縮が中殿筋・深層外旋筋に及ぼす影響
ー超音波画像解析と表面筋電図を用いての検討ー

○脇坂 成重、遠藤 正英

医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院

O-38 大腿骨転子部骨折術後患者における骨折型の違いが身体機能予後に影響する因子について
の検討
ー中野3D-CT分類を用いてー

○田中 大地、千葉 恒、杉澤 裕之、田中 雅仁

富良野協会病院

O-39 大腿骨近位部骨折受傷患者における受傷前の移動形態まで改善する要因

○外間 亮太、奥儀 哲弘、村井 直人

医療法人ちゅうざん会ちゅうざん病院

O-40 大腿骨近位部骨折患者における歩行開始時の跛行に関連する力学的特性について
ー逆応答反応および立位における荷重偏移と第一歩の前方推進との関連ー

○尾上 望実^{1,2)}、中村 潤二^{1,3)}、生野 公貴^{1,3)}、藤井 慎太郎¹⁾、今井 亮太²⁾、庄本 康治³⁾

1)西大和リハビリテーション病院リハビリテーション部、2)河内総合病院リハビリテーション部、
3)畿央大学大学院健康科学研究科

O-41 人工股関節全置換術における術前理学療法の効果について
ストレッチによる効果の検討

○小玉 裕治¹⁾、石田 和宏¹⁾、家入 章¹⁾、宮城島 一史¹⁾、井上 正弘²⁾、安部 聡弥²⁾、菅野 大己²⁾、
増田 武志²⁾

1)我汝会えにわ病院 リハビリテーション科、2)我汝会えにわ病院 整形外科

O-42 変形性股関節症患者の片脚立位保持時の股関節運動戦略

○井原 拓哉^{1,2)}、辛嶋 亮介¹⁾、羽田 清貴³⁾、奥村 晃司³⁾、阿南 雅也⁴⁾、高橋 真⁵⁾、新小田 幸一⁵⁾、
杉木 知武³⁾、川畠 真之³⁾、川畠 真人³⁾

1)かわしまクリニック、2)広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 博士課程後期 保健学専攻、3)川畠整形外科病院、
4)大分大学 福祉健康科学部 理学療法コース、
5)広島大学 大学院医歯薬保健学研究科、附属先駆的リハビリテーション実践支援センター

座長：由利 真
嶋田 誠一郎

O-43 健常者の片脚ドロップジャンプ着地テストに機能的膝装具が与える影響
～足圧中心軌跡長による検討～

○千葉 一貴¹⁾、米谷 泰一²⁾、天野 顕¹⁾、金 由佳¹⁾、衣笠 和孝²⁾、濱田 雅之²⁾

1)JCHO 星ヶ丘医療センター リハビリテーション部、2)JCHO 星ヶ丘医療センター 整形外科

O-44 片脚ジャンプ着地姿勢からみた最大垂直床反力の関連

○天野 顕、米谷 泰一、金 由佳、千葉 一貴、衣笠 和孝、濱田 雅之

JCHO星ヶ丘医療センター

O-45 関節炎に誘導される関節拘縮の形成メカニズム
筋の機械的特性の観点から

○金口 瑛典¹⁾、小澤 淳也²⁾、南本 健吾³⁾

1)森整形外科 リハビリテーション科、2)広島国際大学 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科、
3)広島国際大学大学院 医療・福祉科学研究科 医療工学専攻

O-46 高強度のトレッドミル運動において、低頻度の運動は膝関節軟骨の恒常性を維持する

○脇本 祥夫¹⁾、小原 雄太¹⁾、水野 絵里子¹⁾、野村 将人¹⁾、崎谷 直義¹⁾、島谷 俊亮¹⁾、鈴木 峻太¹⁾、
岩澤 裕之^{1,2)}、森山 英樹³⁾

1)神戸大学大学院保健学研究科、2)聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部、3)神戸大学生命・医学系保健学域

O-47 骨折後患肢免荷から全荷重へと移行していく患者に対するUnderwater Treadmillを用いた歩行練習の効果

○村井 直人、大城 盛弥

医療法人ちゅうざん会ちゅうざん病院

O-48 SPPBとHDS-R評価を用いた安全な病棟内歩行自立指標作成への取り組み

○田垣 幸真、岡田 誠、上田 真也、辻井 麻未、横道 宏昌、中村 富志央、宮崎 宜久

松阪市民病院リハビリテーション室

ポスター プログラム

9月23日(土)

ポスター演題1 16:50～17:50

第3会場(研修室301)

座長: 坂野 裕洋

P-01 尾骨部への圧刺激が体幹後傾位置知覚能に及ぼす影響

○浅井 仁¹⁾、遠藤 壮馬²⁾

1)金沢大学医薬保健研究域保健学系理学療法科学講座、2)金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻

P-02 矢状面の立位姿勢と身体特性の関連性

○中村 響¹⁾、対馬 栄輝²⁾、福田 敦美³⁾、石田 水里⁴⁾、上川 香織^{3,5)}

1)弘前大学大学院保健学研究科博士前期課程、2)弘前大学大学院、3)弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、4)鳴海病院、5)弘前市立病院

P-03 自在曲線定規を用いた腰部の矢状面アライメント評価に関する信頼性・妥当性の検討

○村本 拓磨¹⁾、石田 和宏¹⁾、宮城島 一史¹⁾、大谷 貴之¹⁾、古舘 裕希¹⁾、佐藤 栄修²⁾

1)我汝会 えにわ病院 リハビリテーション科、2)我汝会 えにわ病院 整形外科

P-04 端坐位における胸椎可動性測定信頼性について Ott法とMagee法の比較

○石垣 直輝、宮坂 祐樹

船橋整形外科病院

P-05 健常者の体幹前屈運動時における胸椎ならびに腰椎の角度変化の比較

○安田 透¹⁾、豊田 裕司¹⁾、関田 惇也¹⁾、湯田 健二²⁾

1)ジャパンメディカルアライアンス 座間総合病院、2)ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院

P-06 骨盤回旋角度および股関節回旋可動域の左右差と前額面における体幹位置との関係

○横田 優¹⁾、小林 弘幸^{2,3)}、茂原 亜由美^{4,5)}

1)IMS(イムス)グループ イムス東京葛飾総合病院、2)医療法人社団 韮生会 メディカルプラザ市川駅、
3)社会福祉法人 仁生社 江戸川病院スポーツリハビリテーション、
4)IMS(イムス)グループ イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院、5)昭和大学大学院 医学研究科

P-07 頸椎椎間板ヘルニア患者に対するMcKenzie法に基づいた運動療法の経過において、症状悪化後、再評価で運動内容を変更して症状改善を得た一症例

○葉 清規^{1,2)}、対馬 栄輝²⁾、村瀬 正昭³⁾、大石 陽介³⁾、大田 昇子¹⁾、松田 陽子¹⁾

1)浜脇整形外科リハビリセンターリハビリテーション科、2)弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、
3)浜脇整形外科病院整形外科

P-08 頸椎前方固定術後に左上肢痛が再発した一症例 術前からの身体機能に着目して

○小平 怜¹⁾、加藤 弘卓²⁾

1)湘南えぼし整形外科、2)白岡整形外科

P-09 重度の頸部痛に対してアライメント修正の試み

○鶴 大輔、古賀 秀作、東 裕一

医療法人社団 高邦会 高木病院

- P-10** 姿勢アライメントおよび運動パターンの変化により右頸部～右上腕外側に疼痛が生じた症例
○稲田 洸一
医療法人財団 共済会 清水病院
- P-11** 肘関節脱臼骨折に橈骨遠位端、尺骨遠位端骨折を合併した症例を経験して関節可動域の制限因子についての一考察
○佐々木 淳一
柏厚生総合病院
- P-12** 大腿骨近位部骨折術後の超高齢者に対する、術後早期からの訪問リハビリテーションの介入効果について
○瀬戸口 智之、阪本 良太
大野記念病院
- P-13** 手関節TFCC損傷に関する検討
アライメントに立脚した理学療法モデルの検討
○平田 光司、本田 新
豊平整形外科リハビリテーション科
- P-14** 膝及び下腿への過度なストレスが生じる運動パターンを呈した症例
○林 亜希穂
医療法人財団共済会 清水病院
- P-15** 慢性疼痛患者に発生した新たな急性疼痛に対し理学療法を提供した一症例
○佐伯 秀宣
医療法人 財団 共済会 清水病院

ポスター演題2 16:50～17:50

第4会場（研修室305）

座長：立花 孝

- P-16** 肩関節周囲炎患者における肩甲骨可動性が低下する運動方向の特異性と理学所見の関係
○辛嶋 良介¹⁾、井原 拓哉^{1,3)}、羽田 清貴²⁾、宮本 崇司²⁾、近藤 征治¹⁾、杉木 知武²⁾、川畠 真之²⁾
1)かわしまクリニック、2)川畠整形外科病院、3)広島大学 大学院医歯薬保健学研究科
- P-17** 夜間痛をともなった肩関節疾患患者の臨床像
○松本 伸一^{1,4)}、古川 敬三²⁾、中尾 雄一¹⁾、野口 薫¹⁾、栗山 亜希子¹⁾、下迫 淳平¹⁾、樋口 隆志^{3,5)}、浅見 豊子⁴⁾
1)古川宮田整形外科内科クリニック リハビリテーション科、2)古川宮田整形外科内科クリニック 整形外科、3)こころ医療福祉専門学校、4)佐賀大学大学院医科学研究科、5)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- P-18** イリタビリティの高い凍結肩に対し運動療法とTENSを併用した一例（評価と経過）
○辻 修嗣^{1,3)}、田久保 興徳²⁾、宮崎 純弥⁴⁾
1)生田病院 リハビリテーション科、2)生田病院 整形外科、3)京都橘大学大学院健康科学研究科、4)京都橘大学健康科学部理学療法学科

P-19 本態性の肩こりに影響する姿勢・身体機能の特徴について

○柳谷 百映^{1,2)}、対馬 栄輝³⁾、福田 敦美⁴⁾、石田 水里⁵⁾、上川 香織⁴⁾

1) 弘前大学大学院保健学研究科博士前期課程、2) 芙蓉会村上病院、3) 弘前大学大学院保健学研究科、
4) 弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、5) 鳴海病院

P-20 肩甲上腕関節外転下降時に引っかかり症状のある1症例

腱板機能と肩甲骨運動に着目して

○野口 悠¹⁾、前田 卓哉¹⁾、田村 将希^{1,2)}、松永 勇紀⁴⁾、鈴木 昌^{2,3)}、西中 直也^{2,3)}、千葉 慎一⁴⁾

1) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター、2) 昭和大学スポーツ運動科学研究所、
3) 昭和大学藤が丘病院 整形外科、4) 昭和大学保健医療学部理学療法学科

P-21 腱板広範囲断裂に対する上方関節包再建術例の挙上良好例と挙上不良例の比較検討

○瀧澤 ちなみ、酒井 雄平、清水 康史、渡邊 奈津希

KKR北陸病院リハビリテーション室

P-22 腱板大・広範囲断裂に対する鏡視下腱板修復術後筋力の経時的変化 修復群と再断裂群との比較

○酒井 雄平、瀧澤 ちなみ、清水 康史、渡邊 奈津希

KKR北陸病院リハビリテーション科

P-23 弓道で肩痛を生じた腱板断裂の2例

○加藤 邦大¹⁾、高間 省吾¹⁾、鈴木 勝¹⁾、藤田 耕司²⁾

1) 医療法人社団 誠馨会 千葉メディカルセンター リハビリテーション部、
2) 医療法人社団 誠馨会 千葉メディカルセンター 整形外科

P-24 右肩関節腱板断裂術後、再断裂しリバース型人工肩関節置換術を施行した症例

○今村 啓太¹⁾、吉村 鉄朗²⁾

1) 新行橋病院 リハビリテーション科、2) 新行橋病院 整形外科

P-25 リバース型人工肩関節置換術後の術前X線分類と術後成績の検討

○前田 卓哉¹⁾、田村 将希^{1,2)}、尾崎 尚代^{2,4)}、池田 崇^{1,4)}、西中 直也^{2,3)}、鈴木 昌^{2,3)}、小原 賢司⁵⁾、
大澤 一誉^{2,3)}、古屋 貫二⁴⁾、千葉 慎一^{2,4)}

1) 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院、2) 昭和大学スポーツ運動科学研究所、3) 昭和大学藤が丘病院 整形外科、
4) 昭和大学保健医療学部 理学療法学科、5) 昭和大学江東豊洲病院 整形外科

P-26 肩関節内転等尺性収縮運動時の棘上筋・棘下筋の筋厚の変化について 超音波画像診断装置を用いた検討

○前田 亮¹⁾、田中 康明¹⁾、一瀬 加奈子¹⁾、山口 譲¹⁾、竹内 祐也¹⁾、樋口 隆志²⁾、小森 峻³⁾、
衛藤 正雄⁴⁾

1) 済生会長崎病院、2) ところ医療福祉専門学校、3) 医療法人 こんどう整形外科、4) 済生会長崎病院 整形外科

P-27 肩甲骨と上腕骨との位置関係および肩甲骨アライメントとの関連性 超音波画像診断装置を用いた検討

○田中 康明¹⁾、一瀬 加奈子¹⁾、山口 譲¹⁾、竹内 祐也¹⁾、前田 亮¹⁾、樋口 隆志²⁾、小森 峻³⁾、
衛藤 正雄⁴⁾

1) 済生会長崎病院 リハビリテーション部、2) ところ医療福祉専門学校、3) 医療法人 こんどう整形外科、
4) 済生会長崎病院 整形外科

P-28 上位胸郭形状が肩関節屈曲動作における肩甲骨の三平面上の移動距離に与える影響

○小林 弘幸^{1,2)}、西田 直弥^{3,4)}、柿崎 藤泰⁵⁾

1)医療法人社団 靱生会 メディカルプラザ市川駅、2)社会福祉法人 仁生社 江戸川病院スポーツリハビリテーション、
3)東京医科歯科大学大学院 医学研究科、4)医療法人社団 苑田会 苑田第二病院、5)文京学院大学大学院 保健医療科学研究科

P-29 肩外転および水平屈曲角度の変化が肩外旋運動時の肩甲骨運動に与える影響

○小山 太郎¹⁾、宮下 浩二^{2,3)}、太田 憲一郎²⁾、谷 祐輔²⁾、岡棟 亮二^{1,2)}、衛門 良幸²⁾、松下 廉¹⁾

1)まつした整形外科、2)中部大学大学院生命健康科学研究科リハビリテーション学専攻、
3)中部大学生命健康科学部理学療法学科

P-30 手部横アーチが肩甲帯周囲筋に及ぼす影響 肩関節屈曲およびハイハイ動作の相似的筋活動様式の観察

○稲垣 郁哉¹⁾、小関 泰一^{1,2)}、藤原 務^{1,3)}、多米 一矢¹⁾、松田 俊彦^{1,4)}、鴨下 亮太¹⁾、矢島 貴大¹⁾、
増田 稜輔¹⁾、小関 博久^{1,5)}、財前 知典¹⁾

1)医療法人 博聖会 広尾整形外科、2)東京医科大学大学院 医学研究科 人体構造学分野、
3)東京医科大学大学院 医学研究科 健康増進スポーツ医学分野、4)文京学院大学大学院 保健医療科学研究科、
5)東都リハビリテーション学院

ポスター演題3 18:00～19:00

第3会場(研修室301)

座長：田中 勇治

P-31 歩行立脚期の股関節外転運動パターンによる変形性膝関節症患者のサブグループ化に関する検討(第2報)

○山田 英司¹⁾、近石 宣宏²⁾、五味 徳之²⁾

1)総合病院回生病院関節外科センター附属理学療法部、2)総合病院回生病院関節外科センター

P-32 開大式高位脛骨骨切り術後膝内側痛を呈した一症例

○田中 智哉¹⁾、藪内 潤一¹⁾、田中 宏典¹⁾、金村 斉²⁾、高辻 謙太²⁾

1)市立福知山市市民病院 リハビリテーション科、2)市立福知山市市民病院 整形外科

P-33 開大式高位脛骨骨切り術後抜釘時における日本版変形性膝関節症患者機能評価尺度(JKOM)と歩行能力との関連について

○青芝 貴夫¹⁾、山田 英司¹⁾、近石 宣宏²⁾、五味 徳之²⁾

1)総合病院 回生病院 関節外科センター附属理学療法部、2)総合病院 回生病院 関節外科センター

P-34 高位脛骨骨切り術の術後1年の歩行時の疼痛に関わる因子

○鴛渕 亮一¹⁾、出口 直樹^{1,2)}、井澤 渉太¹⁾、横山 一仁¹⁾、村木 啓人¹⁾、高橋 慶悟¹⁾、野原 英樹¹⁾、
平川 善之¹⁾

1)医療法人 博仁会 福岡リハ整形外科クリニック、2)福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科

P-35 変形性膝関節症と健常高齢者の片脚立位課題における骨盤・体幹の運動学的挙動の比較

○千葉 健^{1,2)}、山中 正紀²⁾、佐橋 健人^{1,3)}、佐々木 駿³⁾、水野 歩³⁾、寒川 美奈²⁾、齊藤 展士²⁾、
堀 弘明¹⁾、由利 真¹⁾、小林 巧⁴⁾、遠山 晴一²⁾

1)北海道大学病院 リハビリテーション部、2)北海道大学大学院保健科学研究院、3)北海道大学大学院保健科学院、
4)北海道千歳リハビリテーション大学

P-36 片側変形性膝関節症患者における床からの立ち上がり動作パターンの調査

○須田 智寛¹⁾、齊藤 英知¹⁾、松永 俊樹¹⁾、齊藤 公男¹⁾、畠山 和利¹⁾、渡邊 基起¹⁾、高橋 裕介¹⁾、
島田 洋一^{1,2)}

1)秋田大学医学部付属病院リハビリテーション科、2)秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科学講座

P-37 変形性膝関節症患者の歩行時膝スティフネスが隣接関節へ及ぼす影響

○内田 茂博^{1,2)}、木藤 伸宏¹⁾、山田 英司³⁾、高橋 真⁴⁾、阿南 雅也⁵⁾、新小田 幸一⁴⁾

1)広島国際大学 総合リハビリテーション学部、2)広島大学大学院 医歯薬保健学研究科保健学専攻博士後期課程、
3)回生病院 関節外科センター理学療法部、4)広島大学大学院 医歯薬保健学研究院、
5)大分大学 福祉健康科学部理学療法コース

P-38 内側型変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術と脛骨顆外反骨切り術のX線所見および臨床成績の比較 ～TCVOの適応についての検討～

○樋口 隆志^{1,2)}、小関 弘展²⁾、米倉 暁彦³⁾、尾崎 誠³⁾

1)こころ医療福祉専門学校、2)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、3)長崎大学整形外科

P-39 地域在住の変形性膝関節症患者に対する治療の実態と理学療法に関する質問紙調査

○南條 恵悟¹⁾、高木 峰子²⁾

1)湘南鎌倉総合病院、2)神奈川県立保健福祉大学

P-40 人工膝関節置換術後、歩行時の疼痛が残存した症例 ー三次元動作解析による歩行分析を踏まえた理学療法ー

○井野 拓実^{1,2)}、吉田 俊教²⁾、大角 侑平²⁾、小竹 諭²⁾、浮城 健吾²⁾、三浦 浩太²⁾、大森 啓司²⁾、
櫻井 茂幸²⁾、吉田 美里²⁾、三上 達也²⁾、清水 健太²⁾、館山 唯²⁾、井上 貴博²⁾

1)北海道科学大学保健医療学部理学療法学科、2)悠康会函館整形外科クリニック

P-41 膝前十字靱帯損傷患者における大腿四頭筋の筋厚・筋輝度と影響因子の関連性

○高木 寛人¹⁾、山川 桂子¹⁾、打田 健人¹⁾、西川 大樹¹⁾、杉浦 江美¹⁾、山本 英樹²⁾

1)名古屋第一赤十字病院リハビリテーション部、2)名古屋第一赤十字病院整形外科

P-42 前十字靱帯再建術後に再断裂を起こした症例の等速性筋力特性について

○斎川 大介、難波 英海、辻村 修一郎、高橋 侑

藤沢湘南台病院

P-43 前十字靱帯損傷患者における姿勢安定度評価指標とBIODEX測定 of 健側患側比率の検討

○相馬 裕一郎¹⁾、岩渕 慎也¹⁾、鈴木 康裕¹⁾、岡本 善敬¹⁾、石川 公久¹⁾、清水 如代²⁾、
羽田 康司²⁾

1)筑波大学附属病院 リハビリテーション部、2)筑波大学医学医療系 リハビリテーション科

P-44 当院における膝前十字靱帯再建術後の再受傷

○館山 唯¹⁾、小竹 諭¹⁾、井上 貴博¹⁾、浮城 健吾¹⁾、吉田 俊教¹⁾、鈴木 航²⁾、大越 康充²⁾

1)悠康会 函館整形外科クリニック リハビリテーション部、2)悠康会 函館整形外科クリニック 整形外科

P-45 膝複合靱帯損傷に対する一次修復術後の理学療法経験

○松井 謙祐¹⁾、坂井 宏章²⁾、川西 佑典²⁾

1)社会医療法人 宏潤会 大同病院 リハビリテーション科、2)社会医療法人 宏潤会 大同病院 整形外科

ポスター演題 4 18:00～19:00

第4会場（研修室305）

座長：関 公輔

P-46 急性期大腿骨頸部骨折患者における入院時BMIと退院時ADLの関係

○折内 英則、室井 宏育、三森 由麻、影山 喜也、佐藤 純也、秋吉 秀美

一財)総合南東北病院リハビリテーション科

P-47 回復期病棟における大腿骨近位部骨折の在院日数とFIM利得に影響を与える因子の検討

○榊枝 功恭

医療法人社団 新生会 南東北第二病院 リハビリテーション科

P-48 大腿骨近位部骨折術後の深部静脈血栓症のリスク因子の検討

○上田 真也、岡田 誠、岡田 直隆、稲葉 匠吾

松阪市民病院リハビリテーション室

P-49 高齢大腿骨近位部骨折術後患者の歩行周期と在院日数の関連について

○高橋 真也

JA徳島 阿南共栄病院

P-50 大腿骨近位部骨折術後患者の退院時CS-30に影響を与える身体機能因子の検討

○杉澤 裕之¹⁾、千葉 恒¹⁾、田中 大地¹⁾、島崎 昭次¹⁾、田中 雅仁²⁾

1)富良野協会病院 リハビリテーション科、2)富良野協会病院 整形外科

**P-51 100歳以上の超高齢者の大腿骨近位部骨折に対する術後理学療法の予後調査
～3ヶ月後の生活状況から見えてきたこと～**

○押川 政史、新地 達哉、戸高 幹生、浅島 知也、藤崎 修兵、徳村 龍太郎、花田 尊

公益社団法人 宮崎県医師会病院 リハビリテーション室

P-52 臼蓋形成不全症の体重増減における応力変化

○畠山 和利¹⁾、小松 瞭²⁾、渡邊 基起¹⁾、高橋 裕介¹⁾、須田 智寛¹⁾、斉藤 公男¹⁾、巖見 武裕²⁾、
松永 俊樹¹⁾、島田 洋一³⁾

1)秋田大学医学部附属病院、2)秋田大学大学院理工学研究科、3)秋田大学大学院医学系研究科整形外科科学講座

**P-53 変形性股関節症患者に対するフォームローラーを用いた保存療法の効果
～非ランダム化比較試験～**

○生友 尚志¹⁾、永井 宏達²⁾、田竈 慶一¹⁾、三浦 なみ香¹⁾、岡村 憲一¹⁾、奥埜 堯人¹⁾、中川 法一¹⁾、
増原 建作³⁾

1)医療法人 増原クリニック リハビリテーション科、2)兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科、
3)医療法人 増原クリニック 整形外科

P-54 片側末期変形性股関節症患者の足部形態について

○岡村 憲一¹⁾、生友 尚志¹⁾、田竈 慶一¹⁾、三浦 なみ香¹⁾、奥埜 堯人¹⁾、中川 法一¹⁾、
増原 建作²⁾

1)医療法人 増原クリニック リハビリテーション科、2)医療法人 増原クリニック 整形外科

**P-55 変形性股関節症患者の片脚立位動作時のセグメント角度の変動係数と股関節外転筋力、中
殿筋断面積との関係**

○児玉 慶司¹⁾、阿南 雅也²⁾、須藤 晴香¹⁾、池田 真一¹⁾、津村 弘¹⁾

1)大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部、2)大分大学福祉健康科学部理学療法コース

P-56 セメントレス人工股関節全置換術後に大腿部痛が生じた一症例

○高木 清仁

小牧ちば整形外科クリニック リハビリテーション科

P-57 脊柱のアライメントと柔軟性は変形性股関節症の進行に影響を与える

○建内 宏重¹⁾、小山 優美子²⁾、秋山 治彦³⁾、後藤 公志⁴⁾、宗 和隆⁵⁾、黒田 隆⁴⁾、市橋 則明¹⁾

1)京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻、2)小林整形外科医院、3)岐阜大学医学部整形外科、
4)京都大学医学部整形外科、5)大阪赤十字病院整形外科

P-58 後期高齢者の股関節唇損傷に対して鏡視下関節唇部分切除術を施行し顕著に疼痛改善と歩行能力向上がみられた一症例

○大橋 賢一

医療法人社団 整形外科 進藤病院 リハビリテーション課

**P-59 大腿骨内顆骨折患者の膝屈曲可動域制限因子の臨床推論
正座獲得に向けて**

○中嶋 直樹

同愛会 博愛病院

P-60 大腿四頭筋腱断裂に対する術後理学療法の実験

○岩村 元気¹⁾、豊田 裕司^{1,2)}、湯田 健二³⁾

1)座間総合病院リハビリテーション科、2)順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科、
3)海老名総合病院リハビリテーション科

9月24日(日)

ポスター演題5 11:10～12:10

第3会場(研修室301)

座長：春藤 健支

P-61 人工膝関節置換術後患者の関節位置覚の変化と膝屈曲可動域、大腿周径、動作との関係

○細谷 誠治

国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院

P-62 人工膝関節置換術術後早期の膝関節側方動揺性と可動域および筋力との関係

○今中 美由子¹⁾、久保田 雅史¹⁾、成瀬 廣亮¹⁾、松尾 英明¹⁾、北出 一平¹⁾、渡部 雄大¹⁾、宮崎 剛²⁾、
小久保 安朗²⁾、松峯 昭彦²⁾、嶋田 誠一郎¹⁾

1)福井大学医学部附属病院リハビリテーション部、2)福井大学医学部器官制御医学講座整形外科学領域

P-63 人工膝関節置換術後早期における歩行遊脚期の膝関節角度と膝周囲筋活動の継時的変化

○齊木 理友¹⁾、久保 直之¹⁾、藤田 和樹²⁾、尾島 朋宏³⁾

1)福井総合病院 リハビリテーション課、2)福井医療大学 医療保健学部 リハビリテーション学科 理学療法教員室、
3)福井総合病院 整形外科

P-64 人工膝関節置換術患者の術後早期の膝関節筋力と歩行パラメータの関係性

○成瀬 廣亮¹⁾、久保田 雅史¹⁾、今中 美由子¹⁾、松尾 英明¹⁾、北出 一平¹⁾、渡部 雄大¹⁾、前 友理¹⁾、
桑鶴 孝一郎¹⁾、小久保 安朗²⁾、宮崎 剛²⁾、松峯 昭彦²⁾、嶋田 誠一郎¹⁾

1)福井大学医学部附属病院リハビリテーション部、2)福井大学医学部器官制御医学講座整形外科学領域

P-65 人工膝関節全置換術後患者における術後身体活動量と歩行手段の関連

○浅川 大地²⁾、大河原 和也¹⁾、金子 悟²⁾、茂木 成介³⁾、龍 啓之助⁴⁾、入内島 崇紀⁵⁾

1)社会福祉法人さつき会 在宅介護支援課、2)医療法人高徳会 上牧温泉病院、3)医療法人高徳会 上牧温泉病院、
4)日本大学整形外科、5)医療法人高徳会 上牧温泉病院整形外科

- P-66** 人工膝関節置換術患者における術後早期の自動および他動関節可動域が在院日数に及ぼす影響
○吉原 聡、林 祐介、吉田 久雄、相場 彩子、林 明人
順天堂大学医学部附属浦安病院 リハビリテーション科
- P-67** 人工膝関節全置換術患者の術後3カ月における患者立脚型アウトカムを用いた非改善者の要因
○高橋 遼、田中 友也、美崎 定也、杉本 和隆
医療法人社団苑田会人工関節センター病院
- P-68** 術後1年の人工膝関節置換術患者の歩行耐久性は向上する
人工膝関節置換術患者の歩行耐久性に関する長期継続的変化の検討
○大西 邦博
ツカザキ病院 神戸大学大学院 吉備国際大学保健福祉研究所
- P-69** 人工膝関節置換術後外来患者に対する通常リハビリテーションとVirtual Reality運動課題を用いた介入の併用が転倒関連アウトカムに与える影響
症例報告
○田澤 智央、美崎 定也、山本 尚史、山口 英典、大島 理絵、杉本 和隆
苑田会人工関節センター病院
- P-70** 人工膝関節置換術前後における歩行時の脳血流量の変化について
○西野 仁¹⁾、森 成志³⁾、関根 紀子⁴⁾、福田 寛二²⁾
1)近畿大学医学部堺病院 リハビリテーション部、2)近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション科、
3)近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科、4)放送大学大学院
- P-71** 変形性膝関節症患者における片側人工膝関節全置換術後の退院時歩行速度1.0m/secに必要な膝伸展筋力の検討
○松本 幸大、浦川 宰、溝口 靖亮、倉林 均、間嶋 満
埼玉医科大学病院リハビリテーション科
- P-72** 人工膝関節単顆置換術後における移動動作の獲得特性
○栗山 泰典、大野 直紀、津野 光昭、伊豆蔵 正明
りんくう総合医療センター
- P-73** BCS TKA術後5ヶ月における患者満足度に寄与する因子の検討
○丸毛 達也¹⁾、石井 達也¹⁾、武田 尊徳¹⁾、大塚 一寛²⁾
1)上尾中央総合病院リハビリテーション技術科、2)上尾中央総合病院整形外科
- P-74** 人工膝関節全置換術後、膝蓋下脂肪体の癒着が膝窩部インピンジメントを誘発し可動域獲得に難渋した症例報告
ー癒着に対する複数の物理療法併用が効果を示したー
○青沼 健二¹⁾、丸山 正昭²⁾
1)JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 リハビリテーション科、
2)JA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

P-75 骨盤帯周囲及び股関節機能に着目した理学療法を行なった下位交差症候群を呈する人工膝関節全置換術後の一症例

○楫野 允也^{1,2)}、対馬 栄輝³⁾

1)独立行政法人国立病院機構 関門医療センター、2)弘前大学大学院保健学研究科 博士後期課程、
3)弘前大学大学院保健学研究科

ポスター演題 6 11:10～12:10

第4会場（研修室305）

座長：青木 一治

P-76 腹部引き込み運動と歩行スピードが歩行中の体幹筋活動に及ぼす影響

○小河原 将央¹⁾、竹中 裕人¹⁾、清水 新悟²⁾

1)医療法人三仁会あさひ病院リハビリテーション科、2)北海道科学大学保健医療学部

P-77 体幹筋群の選択的収縮が胸郭形状に及ぼす影響

○笹川 健吾¹⁾、荒牧 隼浩²⁾、本間 友貴³⁾、平山 哲郎⁴⁾、多米 一矢⁴⁾、柿崎 藤泰⁵⁾

1)看護リハビリ新潟保健医療専門学校、2)IMS(イムス)グループ 板橋中央総合病院、
3)IMS(イムス)グループ クローバーのさと イムスケア カウピリ板橋、4)医療法人 博聖会 広尾整形外科、
5)文京学院大学大学院 保健医療科学研究科

P-78 異なる部位の胸郭運動制限が吸気時の胸郭運動に与える影響

○岡棟 亮二^{1,2)}、宮下 浩二^{1,3)}、谷 祐輔¹⁾、太田 憲一郎¹⁾、衛門 良幸¹⁾、小山 太郎²⁾、松下 廉²⁾

1)中部大学大学院生命健康科学研究科リハビリテーション学専攻、2)まつした整形外科、
3)中部大学生命健康科学部理学療法学科

P-79 女性高齢者における測定姿勢の違いが脊柱アライメントと身体機能との関連に与える影響

○福田 敦美¹⁾、原田 和宏²⁾、二瓶 健司³⁾、対馬 栄輝⁴⁾、石田 水里⁵⁾

1)弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、2)吉備国際大学保健医療福祉学部、3)星総合病院、
4)弘前大学大学院保健学研究科、5)鳴海病院

P-80 高齢成人脊柱変形に対する体幹伸展筋エクササイズ法の違いによる筋活動量の検討

○高橋 諒¹⁾、遠藤 達矢¹⁾、遠藤 浩一¹⁾、小俣 純一³⁾、鶴見 麻里子¹⁾、三浦 拓也¹⁾、佐藤 圭汰¹⁾、
竹俣 朱莉¹⁾、岩渕 真澄²⁾、白土 修²⁾、伊藤 俊一^{1,4)}

1)福島県立医科大学会津医療センター、2)福島県立医科大学会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座、
3)福島県立医科大学新医療系学部設置準備室、4)北海道千歳リハビリテーション大学

**P-81 成人脊柱変形の体幹伸展可動域に対するエクササイズの調査
スパイナルマウスを用いた健常成人での検討**

○佐藤 圭汰^{1,2)}、小俣 純一^{1,3)}、遠藤 達矢^{1,2)}、高橋 諒¹⁾、岩渕 真澄²⁾、白土 修²⁾、伊藤 俊一^{1,4)}

1)福島県立医科大学 会津医療センター リハビリテーション科、
2)福島県立医科大学 会津医療センター 整形外科・脊椎外科学講座、3)福島県立医科大学 新医療系学部設置準備室、
4)北海道千歳リハビリテーション大学

P-82 前屈型腰痛者に対する骨盤運動改善を目的とした運動療法が立位体前屈や前屈時痛に及ぼす即時効果～ランダム化比較試験～

○澤野 純平¹⁾、小川 哲広¹⁾、加藤 史織¹⁾、小林 匠²⁾

1)北星病院 リハビリテーション科、
2)北海道千歳リハビリテーション大学 健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

P-83 経椎間孔的腰椎椎体固定術(TLIF)後の椎体間固定数の違いが術中因子や術後理学療法に及ぼす影響

○木村 玲央¹⁾、田丸 智章¹⁾、藤川 寿史¹⁾、宮崎 雅司¹⁾、下村 珠美¹⁾、増田 誠¹⁾、井尻 幸成¹⁾、
榊間 春利²⁾

1)医療法人術徳会 霧島整形外科、2)鹿児島大学 医学部保健学科理学療法専攻

P-84 退院3ヶ月後に下肢痺れ症状の再燃が見られた高齢者のLSS術後患者の心理的因子の検討

○上野 翔平、中田 勇磨

医療法人友愛会盛岡友愛病院

P-85 腰椎椎間板ヘルニア術後1ヶ月時の腰椎アライメントに影響する身体機能

○宮城島 一史^{1,2)}、対馬 栄輝²⁾、石田 和宏¹⁾、大谷 貴之¹⁾、村本 拓磨¹⁾、古舘 裕希¹⁾、佐藤 栄修³⁾、
百町 貴彦³⁾、柳橋 寧³⁾、安倍 雄一郎³⁾

1)我汝会えにわ病院リハビリテーション科、2)弘前大学大学院保健学研究科 博士後期課程、3)我汝会えにわ病院整形外科

P-86 脊椎単椎間固定術前後のバランス機能の変化とその要因

○谷本 海渡

高松赤十字病院

P-87 腰部脊柱管狭窄症患者における胸腰椎・股関節の回旋可動性の関与について

○井上 智之、林 秀俊、和田 あゆみ

JCHO九州病院

P-88 腰部脊柱管狭窄症術後患者の自覚的な社会生活障害の改善に関与する臨床所見

○岡田 匡史¹⁾、川井 誉清¹⁾、亀山 顕太郎¹⁾、岩永 竜也¹⁾、安宅 洋美²⁾

1)松戸整形外科病院 リハビリテーションセンター、2)松戸整形外科病院 脊椎センター

P-89 成長期第5腰椎椎弓根不全骨折患者の大腰筋横断面積の特徴

○村中 進、彌富 雅信、平川 信洋、青柳 孝彦、鶴田 敏幸

鶴田整形外科

P-90 梨状筋症候群により、上殿神経麻痺を呈したと考えられた一症例

○竹下 真広、山口 美穂、奥長 陽介、太田 裕馬

南草津野村整形外科

ポスター演題7 13:00～14:00

第3会場（研修室301）

座長：東 裕一

P-91 人工股関節全置換術の術前外来リハビリテーションの有効性の検証

○浅見 勇太¹⁾、中村 順一²⁾、加藤 真敏¹⁾、霜田 晃佑¹⁾、寺島 莉穂¹⁾、稲垣 武¹⁾、天田 裕子¹⁾、
浅野 由美¹⁾、村田 淳¹⁾

1)千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション科、2)千葉大学大学院医学研究院 整形外科

P-92 人工股関節全置換術後患者における退院時の跛行の有無に影響する術前因子の検討

○木矢 歳己、都留 貴志、池田 将、加納 一則

地方独立行政法人市立吹田市民病院

P-93 人工股関節全置換術後の股関節外転運動時の臥位姿勢の違いが術後機能に及ぼす影響

○池松 幸二^{1,2)}、加地 啓介²⁾、神野 哲也³⁾、竹井 仁⁴⁾

1)首都大学東京大学院人間健康科学研究科理学療法科学域博士前期課程、
2)東京医科歯科大学医学部附属病院リハビリテーション部、3)東京医科歯科大学医学部附属病院整形外科、
4)首都大学東京大学院人間健康科学研究科理学療法科学域

P-94 人工股関節全置換術における術後早期でのTUGの成績を予測する術後の機能的因子

○溝口 靖亮、松本 幸大、浦川 宰、間嶋 満

埼玉医科大学病院リハビリテーション科

P-95 人工股関節全置換術(THA)後のスポーツ活動が運動機能に及ぼす影響

○二宮 一成¹⁾、落合 俊輔¹⁾、鈴木 浩次¹⁾、佐藤 良治¹⁾、池田 崇²⁾、平川 和男¹⁾

1)湘南鎌倉人工関節センター、2)昭和大学保健医療学部

**P-96 人工股関節全置換術術後の歩行獲得に影響した因子
～股関節外転筋トルク値に着目して～**

○田本 秀禎

医療法人 八重瀬会 同仁病院

**P-97 人工股関節全置換術後の自覚的脚長差と中殿筋弾性率の経時的変化に着目した一症例
～剪断波エラストグラフィを用いた評価の試み～**

○木下 幸大¹⁾、家入 章¹⁾、石田 和宏¹⁾、阿部 明宏²⁾、井上 正弘³⁾、安部 聡弥³⁾、菅野 大己³⁾

1)我汝会えにわ病院 リハビリテーション科、2)我汝会えにわ病院 検査科、3)我汝会えにわ病院 整形外科

P-98 人工股関節全置換術前の日常生活空間を基準とした術前、退院時、外来時の特徴

○分藤 英樹^{1,3)}、山田 健治²⁾、井上 博文^{1,2)}、都甲 純¹⁾、井福 裕美¹⁾、穴見 早苗¹⁾、永田 帆丸¹⁾、
朝来野 恵太¹⁾、小出 美和¹⁾、加藤 浩³⁾

1)大分県立病院 リハビリテーション科、2)大分県立病院 整形外科、
3)九州看護福祉大学大学院看護福祉学研究科健康支援科学専攻

P-99 人工股関節置換術患者の急性期におけるBerg balance scaleの推移

○河野 哲朗、松本 亮、白木 信義、生駒 成亨

社会医療法人緑泉会米盛病院

P-100 人工股関節全置換術前後における歩行中の術側膝関節アライメントの変化

○渡部 雄大¹⁾、松尾 英明¹⁾、久保田 雅史¹⁾、成瀬 廣亮¹⁾、今中 芙由子¹⁾、北出 一平¹⁾、桑鶴 孝一郎¹⁾、
前 友理¹⁾、杉田 大輔²⁾、小久保 安朗²⁾、松峯 昭彦²⁾、嶋田 誠一郎¹⁾

1)福井大学医学部附属病院リハビリテーション部、2)福井大学医学部器官制御医学講座整形外科学領域

P-101 THA術後の股関節内転筋力は歩幅と体幹の動揺性に影響を与える

○鎌田 哲彰^{1,2)}、岡田 恭司²⁾、小西 奈津雄¹⁾、若狭 正彦²⁾、齊藤 明²⁾、木元 稔²⁾、高橋 裕介²⁾、
佐藤 大道^{1,2)}、柴田 和幸^{2,3)}、大倉 和貴³⁾、越後谷 和貴²⁾、新出 卓斗^{2,3)}

1)JA秋田厚生連 秋田厚生医療センター、2)秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻理学療法学講座、3)市立秋田総合病院

P-102 当院における最小侵襲人工股関節全置換術後早期の股関節外転・膝関節伸展筋力の回復推移

○玉造 純子¹⁾、瀧原 純¹⁾、秋田 哲¹⁾、村野 勇¹⁾、橋本 貴幸¹⁾、山田 淳²⁾

1)土浦協同病院 リハビリテーション部、2)土浦協同病院 整形外科

P-103 当院における人工股関節全置換術後の日本整形外科学会股関節疾患質問票の有用性の検討

○藺牟田 博太郎

米盛病院

P-104 急速破壊型股関節症に対し人工股関節全置換術を施行した3症例の理学療法経験

○吉川 咲子¹⁾、長 正則¹⁾、三箇島 吉統²⁾

1)医療法人社団仁成会 高木病院 リハビリテーション科、2)医療法人社団仁成会 高木病院 整形外科

P-105 脱臼性股関節症に対する人工股関節全置換術前後の下肢アライメント変化

○家入 章¹⁾、木下 幸大¹⁾、小玉 裕治¹⁾、石田 和宏¹⁾、対馬 栄輝²⁾、井上 正弘³⁾、安部 聡弥³⁾、菅野 大己³⁾、増田 武志³⁾

1)我汝会えにわ病院 リハビリテーション科、2)弘前大学大学院 保健学研究科、3)我汝会えにわ病院 整形外科

ポスター演題 8

13:00 ~ 14:00

第4会場 (研修室305)

座長：神谷 晃央

P-106 方向転換・車の乗車時に右股関節前面に疼痛を生じた一症例

○櫻井 亮太¹⁾、斉藤 賢一²⁾、亀尾 徹³⁾、久保 雅義³⁾

1)新潟医療福祉大学大学院 臨床徒手理学療法コース、2)こん整形外科クリニック、3)新潟医療福祉大学大学院

P-107 歩行時に股関節前面、腰背部の疼痛が生じていた症例

大腿骨頭の前捻角を考慮したアプローチ

○渡邊 郁海

医療法人社団 明芳会 横浜新都市脳神経外科病院

P-108 膝関節機能障害と動作に対する不安感に着目し介入した1症例

○畠中 絵美¹⁾、亀尾 徹²⁾、近 良明¹⁾

1)こん整形外科クリニック、2)新潟医療福祉大学大学院

P-109 重症度・過敏性・症状の性質の判断から治療戦略を再考した1症例

○福本 周市¹⁾、畠中 絵美²⁾、亀尾 徹³⁾、久保 雅義³⁾

1)新潟医療福祉大学大学院 臨床徒手理学療法コース、2)こん整形外科クリニック、3)新潟医療福祉大学大学院

P-110 骨欠損を伴う大腿骨骨折にMasquelet法が施行され、方針や退院時期決定に難渋した症例

○杉田 久洋

トヨタ記念病院

P-111 大腿骨顆部骨折術後に膝の引っかかり感・伸張感を訴えた症例へのセルフエクササイズ指導
—大腿四頭筋共同腱周囲の滑走性改善を目指して—

○多久和 良亮¹⁾、宮下 創¹⁾、齊藤 明²⁾

1)星ヶ丘医療センター リハビリテーション部、2)秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 理学療法学講座

P-112 産後における育児動作介入により疼痛改善とQOL向上を目指した一症例
COPMとSF36TVを用いた治療展開

○春本 千保子、森 憲一

大阪回生病院

P-113 ウィメンズヘルス・メンズヘルス部門：症例報告
出産経験のあるSwayBack姿勢を呈する慢性腰痛女性の一症例

○杉山 さおり

医療法人AR-Ex都立大整形外科クリニック パーソナルコンディショニングセンター

P-114 産褥早期発症の周産期心筋症に対する理学療法を経験して

○瀬戸 景子

医療法人社団永生会南多摩病院リハビリテーション科

P-115 疼痛を有する腰椎・股関節疾患患者の出産経験の有無と脊椎アライメントの調査

○大田 昇子¹⁾、松田 陽子¹⁾、葉 清規^{1,3)}、村瀬 正昭²⁾、大石 陽介²⁾

1) 浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科、2) 浜脇整形外科病院 整形外科、
3) 弘前大学大学院保健学研究科 博士後期課程

P-116 骨盤底筋体操で症状改善した尿失禁患者の特徴

○埜 美緒、八武崎 李菜、井澤 美保

IMS(イムス)グループ春日部中央総合病院

P-117 妊産婦3症例における骨盤底筋障害の変化特性

○廣瀬 綾¹⁾、安田 真理子¹⁾、山下 真人¹⁾、松本 大輔²⁾、樗 篤³⁾

1) 社会医療法人愛仁会 高槻病院 技術部 リハビリテーション科、2) 畿央大学 健康科学部 理学療法学科、
3) 社会医療法人愛仁会 高槻病院 診療部 リハビリテーション科

P-118 周産期の骨盤コルセット使用と骨盤アライメント変化の関連

○森野 佐芳梨¹⁾、石原 美香²⁾、梅崎 文子³⁾、畑中 洋子³⁾、山下 守³⁾、青山 朋樹⁴⁾、高橋 正樹¹⁾

1) 慶應義塾大学大学院 理工学研究科、2) ピラティススタジオ Wohl、3) 医療法人 葵鐘会、4) 京都大学大学院 医学研究科

P-119 出産経験のある腰椎疾患患者の健康関連QOLと日常生活機能の関連

○松田 陽子¹⁾、葉 清規^{1,2)}、大田 昇子¹⁾、村瀬 正昭³⁾、大石 陽介³⁾

1) 浜脇整形外科リハビリセンター リハビリテーション科、2) 弘前大学大学院保健学研究科 博士後期課程、
3) 浜脇整形外科病院 整形外科

P-120 奈良県安堵町における妊娠・出産包括支援事業での理学療法士の役割の評価と今後の課題の検討

○梶原 由布^{1,2)}、松本 大輔¹⁾、小山 恵子³⁾、内田 みわ³⁾

1) 畿央大学健康科学部理学療法学科、2) 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻、3) 安堵町健康福祉課

ポスター演題9 14:10～15:10

第3会場（研修室301）

座長：内田 茂博

P-121 末期変形性膝関節症患者の歩行速度と変形性膝関節症患者機能評価(JKOM)における股関節内外転筋の影響

○奥川 和幸¹⁾、阪本 良太²⁾

1) 地方独立行政法人 市立吹田市民病院 リハビリテーション科、2) 社会医療法人 寿楽会 大野記念病院 リハビリテーション科

P-122 健常者における歩行中の膝関節角度の特徴に基づいたサブグループ化の試み

○藤井 紀文^{1,2)}、木藤 伸宏³⁾、廣濱 賢太¹⁾、高野 翔吾¹⁾、岩野 巧⁴⁾

- 1) 広島国際大学大学院 医療・福祉科学研究科 医療工学専攻、
2) 医療法人社団おると会 浜脇整形外科病院 リハビリテーション科、
3) 広島国際大学 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻、
4) 徳島健康生活協同組合 徳島健生病院 リハビリテーション科

P-123 3軸加速度計を用いたトレッドミル上歩行と定置足踏み動作中におけるストライド時間の時間変動解析

○岩本 義隆¹⁾、谷本 研二¹⁾、高橋 真^{2,3)}、木藤 伸宏⁴⁾、新小田 幸一^{2,3)}

- 1) 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 博士課程後期 保健学専攻、2) 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科、
3) 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科附属先駆的リハビリテーション実践支援センター、
4) 広島国際大学 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

P-124 歩行時の外的股関節内転モーメントには前額面レバーアームが関連する

○佐橋 健人^{1,2)}、山中 正紀³⁾、千葉 健^{2,3)}、佐々木 駿¹⁾、水野 歩¹⁾、寒川 美奈³⁾、齊藤 展士³⁾、
由利 真²⁾、遠山 晴一³⁾

- 1) 北海道大学大学院保健科学院、2) 北海道大学病院リハビリテーション部、3) 北海道大学大学院保健科学研究院

P-125 Toe-out歩行における足角の変化が歩行時立脚初期の膝関節モーメントに及ぼす影響

○川崎 亘^{1,2)}、加藤 浩²⁾

- 1) 千鳥橋病院 リハビリテーション技術部、2) 九州看護福祉大学大学院 看護福祉学研究科 健康支援科学専攻

P-126 歩行時の三次元下肢荷重線 TKA術前後の比較

○浮城 健吾¹⁾、大越 康充²⁾、川上 健作³⁾、鈴木 昭二⁴⁾、吉田 美里¹⁾、井野 拓実^{1,5)}、小竹 諭¹⁾、
吉田 俊教¹⁾

- 1) 悠康会 函館整形外科クリニック リハビリテーション部、2) 悠康会 函館整形外科クリニック 整形外科、
3) 函館工業専門学校 生産システム工学科、4) 公立はこだて未来大学 システム情報科学部 複雑系知能学科、
5) 北海道科学大学 保健医療学部 理学療法学科

P-127 片脚立位姿勢の違いが重心動揺パラメータに与える影響について

○福士 千尋¹⁾、対馬 栄輝²⁾、福田 敦美³⁾、石田 水里⁴⁾、上川 香織^{3,5)}

- 1) 弘前大学大学院保健学研究科博士前期課程、2) 弘前大学大学院保健学研究科、3) 弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、
4) 鳴海病院、5) 弘前市立病院

P-128 昇段動作中の体幹側方傾斜が外的膝関節内反モーメントに与える影響 2つのピーク値に分けた検討

○水野 歩¹⁾、山中 正紀²⁾、佐橋 健人^{1,3)}、千葉 健^{2,3)}、佐々木 駿¹⁾、寒川 美奈²⁾、齊藤 展士²⁾、
遠山 晴一²⁾

- 1) 北海道大学大学院保健科学院、2) 北海道大学大学院保健科学研究院、3) 北海道大学病院 リハビリテーション部

P-129 側方への荷重練習課題としての前方への片手リーチの有用性

○荒井 知野¹⁾、谷畑 和幸¹⁾、廣澤 暁^{1,2)}、江戸 優裕³⁾

- 1) 高島平中央総合病院、2) 文京学院大学大学院 保健医療科学研究科、3) 文京学院大学 保健医療技術学部 理学療法学科

P-130 座位側方リーチ動作時の脊柱回旋運動と体幹回旋筋活動との関係性

○森川 大貴^{1,2)}、加藤 浩²⁾

- 1) 熊本託麻台リハビリテーション病院、2) 九州看護福祉大学大学院看護福祉学研究科健康支援科学専攻

P-131 病棟歩行自立判定と床への最大リーチ距離テストの関係

○上川 香織^{1,2)}、対馬 栄輝³⁾、石田 水里⁴⁾、福田 敦美¹⁾、奈川 英美⁵⁾、佐藤 誠剛²⁾

1)弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程、2)弘前市立病院、3)弘前大学大学院保健学研究科、4)鳴海病院、5)自宅

P-132 異なる条件のトレッドミル走行が骨格筋に与える影響

○小原 雄太¹⁾、脇本 祥夫¹⁾、水野 絵里子¹⁾、野村 将人¹⁾、崎谷 直義¹⁾、鈴木 峻太¹⁾、島谷 俊亮¹⁾、森山 英樹²⁾

1)神戸大学大学院保健学研究科、2)神戸大学生命・医学系保健学域

P-133 免荷式歩行練習が恐怖心を与える影響について

○久米 裕介¹⁾、小出 祐¹⁾、矢澤 浩成²⁾

1)愛知県済生会リハビリテーション病院、2)中部大学生命健康科学部理学療法学科

P-134 左寛骨臼骨折により荷重制限を呈した患者への水中トレッドミルを用いた歩行練習の効果

○大城 盛弥、村井 直人

医療法人ちゅうざん会ちゅうざん病院

P-135 Honda製歩行アシストを用いた歩行練習による効果 ～自信を取り戻し、一人暮らしを再開した90歳代のデイサービス利用者～

○原田 浩史¹⁾、内田 智也²⁾

1)KOBEM須磨きらくえん、2)藤田整形外科スポーツクリニック

ポスター演題 10 14:10～15:10

第4会場（研修室305）

座長：三浦 雅文

P-136 膝伸展筋の等尺性収縮による照準運動の変動性

○上野 亘

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

P-137 若年女性における大腿直筋の筋内腱形態と筋厚、膝伸展筋力の関連

○高橋 裕介^{1,2)}、岡田 恭司²⁾、齊藤 明²⁾、畠山 和利¹⁾、渡邊 基起¹⁾、須田 智寛^{1,2)}、佐藤 大道^{2,3)}、柴田 和幸^{2,4)}、若狭 正彦²⁾、木元 稔²⁾、齊藤 公男¹⁾、松永 俊樹¹⁾、島田 洋一⁵⁾

1)秋田大学医学部附属病院、2)秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻理学療法学講座、3)秋田厚生医療センター、4)市立秋田総合病院、5)秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系整形外科科学講座

P-138 片脚着地時の下肢回旋が膝関節外反と足圧に与える影響

○新出 卓斗^{1,2)}、岡田 恭司³⁾、若狭 正彦³⁾、齊藤 明³⁾、木元 稔³⁾、柴田 和幸^{1,2)}、大倉 和貴¹⁾、鎌田 哲彰^{2,4)}、佐藤 大道^{2,4)}、高橋 裕介^{2,5)}、高橋 仁美¹⁾

1)市立秋田総合病院 外科診療部 リハビリテーション科、2)秋田大学 大学院 医学系研究科 保健学専攻、3)秋田大学 大学院 医学系研究科 保健学専攻 理学療法学講座、4)JA 秋田厚生医療センター リハビリテーション科、5)秋田大学附属病院 リハビリテーション科

P-139 足関節内反捻挫に関する臨床研究 ～当院における足関節内反捻挫に対するテーピング治療の取り組み～

○菊池 裕樹

医療法人社団 暉英会 須藤整形外科クリニック

P-140 両側アキレス腱断裂患者における機能的装具の有無が歩行能力に与える影響

○横地 正伸、竹山 大輔

一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院

P-141 足根洞を刺激する足関節装具の検討

○清水 新悟¹⁾、早川 康之¹⁾、昆 恵介¹⁾、真田 亜希子²⁾、山田 裕之²⁾

1)北海道科学大学 保健医療学部、2)アルケア株式会社医工学研究所

P-142 動的バランス能力と足関節可動域の関係性 重心動揺計による動的バランス評価

○岩渕 慎也¹⁾、鈴木 康裕¹⁾、相馬 裕一郎¹⁾、石川 公久¹⁾、清水 如代²⁾、羽田 康司²⁾

1)筑波大学附属病院 リハビリテーション部、2)筑波大学医学医療系 リハビリテーション科

P-143 筋疲労による足部回外トルクの減少が片脚立位中のLeg-Heel Angleに及ぼす影響

○福士 百合子¹⁾、青木 信裕²⁾、廣田 健斗³⁾、山崎 肇¹⁾、片寄 正樹²⁾

1)羊ヶ丘病院、2)札幌医科大学保健医療学部理学療法学科、3)帯広協会病院

P-144 超音波画像診断装置を用いた母趾外転筋機能の客観的評価の試み

○浦本 史也¹⁾、尾田 敦²⁾、石川 大瑛²⁾、前田 健太郎^{3,4)}、横山 寛子³⁾、藤林 直樹³⁾、鹿内 和也³⁾、伊藤 亮太³⁾、山本 泰雄¹⁾、皆川 裕樹⁵⁾

1)社会医療法人 仁陽会 西岡第一病院 リハビリテーション部、2)弘前大学教育研究院医学系保健科学領域、
3)弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域、4)かわむら整形外科、
5)社会医療法人 仁陽会 西岡第一病院整形外科

P-145 Standing Calf Raiseにおける母趾外転筋厚の変化と内側縦アーチに及ぼす影響について

○渡邊 修司¹⁾、廣瀬 昇¹⁾、平賀 篤¹⁾、新永 拓也¹⁾、松本 直樹²⁾、山崎 栄林³⁾、丸山 仁司⁴⁾

1)帝京科学大学 医療科学部 理学療法学科、2)山梨勤労者医療協会 石和共立病院、
3)医療法人社団 青虎会 ツル虎ノ門リハビリテーション病院、4)国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 理学療法学分野

P-146 40年以上経過した下垂足に対して適切な歩行獲得を目指して装具療法を試みた一症例 脊椎矯正固定術後の脊椎アライメントに着目し三次元動作解析装置を用いての検討

○石井 健史¹⁾、伊藤 貴史^{1,2,3)}、田中 沙織¹⁾

1)苑田会リハビリテーション病院、2)苑田会第三病院、3)苑田会東京脊椎脊髄病センター

P-147 交通外傷により足関節骨折と著明な浮腫を認め、足背裂創部での癒着が示唆された一症例 —超音波画像診断装置による浮腫、癒着の評価とその治療—

○吉田 圭佑、宮下 創、多久和 良亮

星ヶ丘医療センター リハビリテーション部

P-148 腓骨神経、脛骨神経麻痺を伴うGustilo分類typeⅢC下腿開放骨折症例に対する理学療法戦略

○菅原 亮太、小野寺 智亮、荒木 浩二郎

医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院 整形外科外傷センター

P-149 長母趾伸筋腱再断裂に対する術後理学療法

○田村 淳、権藤 要、波多野 慎吾、成相 真子

JCHO玉造病院

P-150 pilon骨折術後のclaw toeに対し足趾屈筋腱切り術が必要となった一症例

○青野 達¹⁾、溝口 雅之¹⁾、松垣 亨²⁾

1)済生会福岡総合病院 リハビリテーション部、2)済生会福岡総合病院 整形外科

P-151 異なる運動条件がマウス成長軟骨の細胞に与える影響

○水野 絵里子¹⁾、脇本 祥夫¹⁾、小原 雄太¹⁾、野村 将人¹⁾、崎谷 直義¹⁾、島谷 俊亮¹⁾、鈴木 峻太¹⁾、森山 英樹²⁾

1)神戸大学大学院保健学研究科、2)神戸大学生命・医学系保健学域

P-152 呼吸器疾患における臨床推論過程の可視化の試み ワークシートの開発について(運動器との関連性の視点から)

○古賀 秀作¹⁾、永井 豊美²⁾、那須 千鶴³⁾、江郷 功起⁴⁾

1)高木病院、2)Physio Study Kyoto、3)桜十字病院、4)大牟田市立病院

P-153 高齢RA患者のMFD(Morning Functional Disturbance)からみた機能的寛解の糸口

○阿部 敏彦

田窪リウマチ・整形外科 リハビリテーション室

P-154 スマートフォンを用いた自動運動時の筋タイトネス評価の信頼性

○宮地 庸祐¹⁾、神谷 光広²⁾、古田 国大³⁾、鈴木 惇也¹⁾、春田 みどり¹⁾、伴 留重¹⁾、花村 俊太郎⁴⁾

1)三仁会あさひ病院リハビリテーション科、2)愛知医科大学整形外科、3)三仁会勝整形外科リハビリテーション科、4)三仁会あさひ病院整形外科

P-155 セルフケアとしてのマッサージ器の使用が筋硬度に及ぼす影響

○酒井 章吾

広島大学大学院医歯薬保健学研究科

P-156 ジャックナイフストレッチにおける即時的効果 柔軟性・筋出力・脊柱弯曲アライメントに着目して

○石崎 亨¹⁾、杉浦 史郎^{1,2)}、長谷部 清貴³⁾、豊岡 毅¹⁾、中村 恵太¹⁾、大山 隆人¹⁾、古手 礼子¹⁾、渡辺 純子¹⁾、武田 大輝¹⁾、篠崎 公則¹⁾、鎌田 みなみ¹⁾、西川 悟⁴⁾

1)西川整形外科 リハビリテーション部、2)千葉大学大学院医学研究院 整形外科、3)帝京大学医学部附属溝口病院 リハビリテーション部、4)西川整形外科

P-157 経皮的炭酸ガス吸収療法は筋の線維化と低酸素を改善することで中枢性麻痺後の関節拘縮の進行を遅らせる

○鈴木 峻太¹⁾、崎谷 直義¹⁾、高野 祥子²⁾、島谷 俊亮¹⁾、野村 将人¹⁾、脇本 祥夫¹⁾、小原 雄太¹⁾、水野 絵里子¹⁾、上羽 岳志³⁾、秋末 敏宏³⁾、酒井 良忠³⁾、森山 英樹⁴⁾

1)神戸大学大学院保健学研究科、2)重症心身障害児施設にこにこハウス医療福祉センター、3)神戸大学医学研究科リハビリテーション機能回復学、4)神戸大学生命・医学系保健学域

P-158 中枢性麻痺後の関節拘縮に対する経皮的炭酸ガス吸収療法の治療効果

○崎谷 直義¹⁾、宮元 瑠²⁾、野村 将人¹⁾、鈴木 峻太¹⁾、小原 雄太¹⁾、水野 絵里子¹⁾、八鍬 匠²⁾、井上 翔太²⁾、脇本 祥夫¹⁾、島谷 俊亮¹⁾、岩澤 裕之^{1,3)}、上羽 岳志⁴⁾、秋末 敏宏⁵⁾、酒井 良忠⁵⁾、森山 英樹⁵⁾

1)神戸大学大学院保健学研究科、2)神戸大学医学部保健学科、3)聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部、4)神戸大学大学院医学研究科、5)神戸大学生命・医学保健学域

P-159 超音波診断装置を用いての橈骨神経長軸方向の動きの評価に関する再現性の検討
～frame by frame cross-correlation analysis法を用いての検討～

○伊藤 貴史^{1,2,3)}、江森 亮^{2,3)}、大坂 祐樹^{2,3)}、吉田 大志⁴⁾、星野 雅洋³⁾、大森 圭太³⁾、五十嵐 秀俊³⁾

1) 苑田会リハビリテーション病院リハビリテーション科、2) 苑田第三病院リハビリテーション科、
3) 苑田会東京脊椎脊髄病センター、4) 苑田第三病院放射線科

P-160 足関節他動運動時の脛骨神経長軸方向の動きの評価に関する再現性の検討
～超音波診断装置にてframe by frame cross-correlation analysis法を用いての検討～

○江森 亮¹⁾、伊藤 貴史^{1,2,3)}、大坂 祐樹^{1,2)}、吉田 大志⁴⁾、星野 雅洋²⁾、大森 圭太²⁾、五十嵐 秀俊²⁾

1) 苑田第三病院リハビリテーション科、2) 苑田会東京脊椎脊髄病センター、
3) 苑田会リハビリテーション病院リハビリテーション科、4) 苑田第三病院放射線科

P-161 表面筋電図を用いた筋膜マニピュレーション®の効果検証

○澤村 彰吾^{1,2)}、田島 嘉人³⁾、三上 章允²⁾

1) 木沢記念病院 総合リハビリテーション部、2) 中部学院大学大学院 人間福祉学研究科、
3) 平成医療短期大学 リハビリテーション学科 理学療法専攻

ポスター演題 12 15:20 ～ 16:20

第4会場 (研修室305)

座長：橋本 雅至

P-162 成長期バスケットボール選手における足部痛の有病割合と関連因子

○檜村 孝憲¹⁾、高田 雄一²⁾、大歳 憲一³⁾、渡邊 和之⁴⁾

1) JA福島厚生連 塙厚生病院、2) 北海道文教大学 人間科学部 理学療法学科、3) おおとし消化器科整形外科、
4) 福島県立医科大学 医学部 整形外科学講座

P-163 高校部活動(サッカー)への競技力向上・予防の取り組み
～理学療法士としてのサポート～

○長澤 良介¹⁾、篠田 洋之²⁾

1) 東京勤労者医療会 代々木病院 通所リハビリテーション、2) 早稲田大学本庄高等学院

P-164 ハンドボールにおけるジャンプシュート後の片脚着地の動作分析
ACL損傷に着目して

○和田 隼¹⁾、黒澤 和生²⁾、今井 丈³⁾、勝平 純司^{4,5)}、山本 直弥¹⁾

1) 医療法人司絆生 吉田クリニック、2) 国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科、
3) 常葉大学 健康プロデュース学部 心身マネジメント学科、4) 新潟医療福祉大学 医療技術学部 義肢装具自立支援学科、
5) 東京大学医学部附属病院 22世紀医療センター 運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座

P-165 野球選手における投球動作を考慮したフォワードランジ肢位からの体幹回旋動作に伴う骨盤回旋可動域検査の妥当性と信頼性の検討

○西 亮介、吉田 亮太

東前橋整形外科クリニック

P-166 中学硬式野球選手における腰痛と股関節可動域の関連性について検討

○森木 研登^{1,2)}、対馬 栄輝²⁾、飯澤 剛¹⁾、河治 勇人³⁾、山根 将弘³⁾、土橋 由夏⁴⁾、池本 吉一¹⁾

1) 医療法人社団 篠路整形外科リハビリテーション科、2) 弘前大学大学院保健学研究科 博士前期課程、3) 北海道医療大学病院、
4) 医療法人社団 静和記念病院

P-167 ノルディックウォーキング時における体幹回旋筋の筋活動
通常歩行とNWを比較して

○岡澤 和哉、藤田 努、阿波村 龍一

九州大学病院 リハビリテーション部

P-168 右脛骨開放骨折患者に対し、少林寺拳法の復帰を試みた一症例
～前方下肢回し蹴り動作の軸脚足部機能に着目して～

○佐伯 訓明、春本 千保子、森 憲一

大阪回生病院

P-169 外傷性三角筋、大胸筋損傷に対する広背筋皮弁移植修復術後にスポーツ復帰が可能となった1症例

○宮崎 準也

医療法人鉄蕉会 亀田メディカルセンター

P-170 キネシオテープの貼付が膝関節伸展筋および屈筋の筋機能に及ぼす影響
－Biodexを用いた比較－

○谷口 豪

東京メディカル・スポーツ専門学校

P-171 成長期の膝蓋骨不安定性を有する膝蓋大腿関節痛に対してテーピングを併用した理学療法
が有効だった症例

○田邊 泰雅¹⁾、今田 康大¹⁾、大野 智貴¹⁾、若林 敏行²⁾

1)目白整形外科内科 リハビリテーション科、2)目白整形外科内科 整形外科

「運動器障害による疼痛に対する理学療法」

名古屋大学大学院医学系研究科

鈴木 重行

運動器障害による疼痛の原因は画像で判断できる器質的变化によるものと、軟部組織由来の機能的変化によるものに大別される。このうち、器質的变化による疼痛は医師による手術、等により解決が求められるもので、機能的変化による疼痛は理学療法士が解決できるあるいは改善できる病態である。医療機関では運動器障害に対して主に整形外科医により診断名が付けられ、その診断名のもと、理学療法が指示あるいは依頼される。養成校教育では、主に整形外科医による運動器障害の講義が行われていることから、運動器障害による疼痛は画像で判断できる器質的变化が主要因と講義される傾向にある。

侵害刺激により興奮する受容器は、関節軟骨、関節唇、半月板、椎間板などには一般的には存在しない。一方、皮膚、筋膜、靱帯、関節包など画像ではその機能的変化が判断できない結合組織には侵害受容器が豊富に分布しており、筋の過収縮や循環障害、あるいは筋膜へのメカニカルストレスにより、筋膜に分布する侵害受容器が著明に興奮することが報告されている。また、これらの侵害受容器活動は理学療法により柔軟性や循環を改善することで抑制され、その結果、疼痛が軽減される。したがって、運動器障害では器質的变化が存在する場合においても、軟部組織の機能的変化による疼痛が重複していないか評価して理学療法を提供する必要がある。

一方、3か月以上持続あるいは断続する疼痛を慢性痛と定義し、その病態には長期増強、アロデニアなど中枢神経系の‘負’の可塑的变化が関係することがわかっており、その改善策の1つとしてエアロビクス、散歩などの全身運動が推奨されている。しかしながら、改善策の中にも、ストレッチ、筋力増強のエビデンスが高いことから、これらの理学療法により末梢組織の疼痛、柔軟性、循環動態が改善し、中枢神経系の‘正’の可塑的变化を引き起こすことが予想される。

これらのことから、運動器障害による疼痛に対する理学療法では、器質的变化がある場合でも、中枢神経系の可塑的变化がある場合でも、末梢組織へのアプローチにより、疼痛だけでなく、柔軟性、循環動態が改善し、その結果、中枢神経系の可塑的变化を‘負’から‘正’に変換することが期待できる。

腰部障害に対する運動療法

北海道千歳リハビリテーション大学

伊藤 俊一

腰部障害は、椎体障害、椎間板障害、椎間関節障害、筋・腱障害など、その原因は多岐に渡る。

この障害による腰痛発症の頻度は、Nachemsonらによればpoint prevalence（今現在腰痛がある人）15-30%、lifetime prevalence（過去腰痛があった人）60-80%であり、年齢別ではほぼ年齢に関係なく30-40%の人が腰痛を訴え、非常に発症頻度の高い症状であることが示されてきた。また、この腰痛での欠勤による労働損失の約50%は15%の慢性腰痛患者によるものとして、世界的な社会問題ともなっている。さらに、近年の腰痛診療ガイドラインでは、85%の腰痛は画像での確定診断が不可能で、85%では手術が必要ないとされ、まず保存療法、すなわち運動療法が第一選択となっている。

その対処法として、1937年にWilliams治療体操、1979年にMcKenzieエクササイズ、1996年以降ではRichardsonらによる腰部脊柱安定化エクササイズ、と変遷してきた。何れのエクササイズも、近年の報告でその改善が腰痛の改善に創刊するとして重要性が認められた脊柱可動性の改善や体幹筋力強化を目的としている。

しかし、前述のとおり腰痛の原因は様々であるため、〇〇法や●●エクササイズのみですべてが改善に結びつくわけでない。これは近年の腰痛診療ガイドラインで、運動療法は急性腰痛には効果が示されていないが、亜急性期には限定的、慢性期では高いエビデンスが示され、Cochrane Data Base（コクラン）でも腰痛におけるおもに急性期から亜急性期の痛みの改善とおもに慢性期の腰痛特異的ADL・QOL改善に推奨されているエクササイズのランキングは異なっており、初診時からずっと1つの方法で対応するのではなく、対象者の状態や病期に合わせたエクササイズの段階的選択と実施が重要となることを示す結果と考える。

我々は、福島県立医科大学会津医療センターでの臨床データを中心として、理学療法評価法の見直しと効果判定の再考を中心として、エクササイズの段階的選択の検討を重ねてきた。

当日は、コクランで痛みの改善に対して最も推奨されている筋ストレッチングの方法とその効果、ADL・QOL改善に最も推奨されている体幹筋力強化に関して日本人3,144名での標準データを提示する。さらに、超高齢化社会に於ける対象の高齢化や脊柱変形に対する導入エクササイズおよび再発予防エクササイズとして今後推奨される、立位で簡便に実施可能な体幹柔軟性拡大・筋力強化エクササイズについて紹介する。

日本スピードスケートナショナルチーム帯同における マニュアルセラピストの役割

株式会社ELT健康増進研究所

佐伯 武士

日本スピードスケートナショナルチームは、2018年に開催される平昌オリンピックに向けて国内選手の強化を図るために平成25年度に設立された。スピードスケートナショナルチームは短距離を専門とするスプリントチーム（ナショナルスプリントチーム：NSPT）及び中長距離を専門とするオールランドチーム（ナショナルオールランドチーム：NART）に分けられ、国内を代表する強化選手達の活動支援を行っている。

NSPT・NART共に平成26年度よりソチオリンピックにてスピードスケート競技で24個のメダルを獲得したオランダから専任コーチを召喚し、オランダにおけるトレーニングシステムを導入している。

オランダ国内の理学療法は、理学療法士養成大学教育卒業後にオランダ理学療法士協会の定める認定専門家技術課程（マニュアルセラピスト・脳神経系専門技術等）を修了することにより、国内における診療保険通常点数に専門家加算されるシステムがとられている。その為、マニュアルセラピー技術の専門課程は、オランダ理学療法士の約半数が修了し、資格を取得しており、日々の診療に活用されている。また、オランダにおけるスポーツ分野においても、マニュアルセラピストによるメディカルサポートが一般的となっている。

国内ナショナルチームのメディカルスタッフは、医師、マニュアルセラピスト、アスレチックトレーナー・鍼灸マッサージ師で構成され、シーズンを通じて選手に生じる疲労や障害に対して可及的早期に対応し、コンディションの維持・調整が責務となっている。

本講演では、マニュアルセラピストとしてナショナルチームの中でどのような役割を持ち、また現場においてどう介入しているのか紹介する。

女性の体幹機能をどう捉え、アプローチするか

Physiolink

石井美和子

体幹機能の評価及び介入をする際、大前提として運動器としての機能を理解していることが必須である。姿勢不良で体幹機能の低下が疑われた場合、その原因として特定の筋の弱化や一部の関節や軟部組織の運動制限等が挙げられる。それらの機能障害を示す所見を把握した上で初めて、女性に多い、あるいは女性特有の病態や疾患と所見との関連付けに女性特有の身体的変化及びライフイベントといった女性特有の要素を加味する視点が必要になると考えられる。

例えば、下部尿路症状の一つである腹圧性尿失禁は、中年以降の女性に発生率が高い。女性のライフイベントの一つである妊娠・出産、特に経膈分娩が骨盤底障害を惹起するといわれており、腹圧上昇時に男性に比べて尿漏れが生じやすい女性の構造特性に加えて、女性特有のライフイベントとそこにまつわる背景を含めて理解する必要がある。しかし、骨盤底機能不良が疑われたとしても、骨盤底筋の再教育で症状改善がみられる場合だけではなく、腹圧が上昇する運動戦略そのものを同時に変える必要がある場合も決して少なくないことから、運動器として体幹機能を捉えることが非常に重要となる。さらに、腹圧が上昇する動作や習慣は女性に限られたことではない。適切でない運動・動作戦略が腹圧の分散する方向を偏らせ、骨盤底及び腹部にかかる圧が増加する現象は性別に関係なく起こる。そういった運動戦略が妊娠経験のない女性や構造的に異なる男性で認められた場合に生じ得る問題も合わせて考えられることが我々理学療法士には必要である。

姿勢の変化に着目すると、女性では胸椎後弯増加と腰椎前弯減少という姿勢変化が40代ですでに始まっている（山口ら、1976）。姿勢は体幹機能を示す一指標であり、その変化は姿勢コントロール能力の変容を示唆する。その能力に深くかかわる腹部に、例えば妊娠によって生じた腹直筋離開が存在するかもしれない。しかし、その女性の体幹機能にその腹直筋離開は悪影響を及ぼしていないかもしれない。その判断方法は全て、運動器に対して実施する評価と同じである。もしもそれが望ましくない運動戦略につながる場合は、理学療法介入において姿勢の改善とともに運動戦略を変えることを目指さすべきである。

運動器障害やその予防、転倒リスクの軽減を考える上で、運動器として体幹機能に介入し、姿勢コントロール能の維持・向上が重要であることは周知されている。「妊娠・出産をした」「更年期以降の年代」等「女性の…」という枠に囚われず、また症状や病態が運動器でなくとも、まずは運動器の評価が必須であり、その上で女性特有の要素を加味して臨床を展開できること、さらには疾患・病態特異性のあるケースに対して、より専門的知識と技能を備えた理学療法士が介入することが最善であると感じている。

運動器障害に対する理学療法の評価・アプローチ ～姿勢・関節・筋・神経に着目して～

埼玉医科大学大学院理学療法学

赤坂 清和

運動器障害において、理学療法士の役割は大きく2つある。整形外科術後の理学療法と保存的治療としての筋骨格理学療法である。それぞれの理学療法における役割や必要となる理学療法サービスは大きく異なっている。整形外科における手術では、骨折後の骨接合術、変形性関節症に対するアライメントを修正する骨切術や関節形成術、関節の不安定性に対する固定術、脊椎や神経に由来する疼痛に対する椎弓切除術、腫瘍や椎間板ヘルニアなどを取り除く除去手術など、術前の問題点に対して行われる整形外科手術後の理学療法では、できる限り受傷や発症前の状態に近づけるための理学療法が行われる。根本的な治療は整形外科による手術により行われるため、術後理学療法では、関節可動域や筋力増強、柔軟性の回復、基本動作の再獲得、日常生活活動への復帰が求められる。もちろん理学療法の内容が適切に行われることが患者の回復速度と到達度に影響を及ぼすことになるが、時期に応じた適切な理学療法が展開されることにより、基本的には大きな問題が生じることはない。一方、外来で対応することが多い筋骨格理学療法では、担当医からの診断名や画像所見は参考になるものの、理学療法士が患者の問題点を明確にして、それを改善することが求められる。患者が提示する姿勢や表情、手の動きや正常ではない動作などを観察することは、医療面談時における患者の言葉と同様の情報を提供することがある。問題は時間の制約である。予約キャンセルによる混乱を防ぐためや過多の理学療法予約のために慢性的に忙しい理学療法診療施設では、複数単位による理学療法が難しく、20分1単位の中で医療面談、評価、治療、診療記録、会計処置、そして総合実施計画書の作成が求められる。医療面談と評価が適切に行われなければ、適切な治療を行うことはできない。評価は医療面談時に得られた情報と来室時の姿勢や動作を参考に、実施すべき治療を確定する評価が行われるべきであり、運動器障害の場合、術後理学療法と同様である関節可動域や筋力、柔軟性、基本動作、姿勢、歩行などに加えて、担当医により手術は不要と判断された患者の訴える機能障害に焦点を当てたより詳細な評価が必要となる。その手掛かりは、問題と考えられる身体部位に対する整形外科徒手検査とそれに対する患者の反応により、治療方法が洗練化され、実際の治療における効果判定により、治療プログラムの実施と関連する動作や活動を含めた総合的な効果判定が行われる。そして、次回の理学療法までに行われるテーピングやホームプログラムにより治療効果の持続は影響を受ける。今回のシンポジウムでは、他のシンポジスト及び会場の会員の皆様といくつかの具体的な症例を提示して、実際の評価や治療、そして効果判定についての手順と注意すべきポイントを確認しながら、見識を深めたいと考えている。

運動器障害に対する理学療法の評価・アプローチ

九州看護福祉大学大学院

加藤 浩

【はじめに】

本シンポジウムの目的は、従来の疾患に基盤をおく考え方から、障害に基盤をおく考え方の重要性について検討し、今後の運動器理学療法の発展のきっかちとすることである。小生はこれまで主に股関節機能障害を有する患者の理学療法の研究を行ってきた。そこで、これまでの研究内容を元に局所的・全身的視点から股関節障害特性についてのデータを提示し、今後の臨床研究の意義・課題について述べてみたい。

【局所的視点からみた股関節機能障害】

股関節の運動は大腿骨と寛骨臼で連結された臼状関節であり、その運動は大腿骨頭中心を軸に屈曲―伸展、外転―内転、外旋―内旋する多軸関節である。また、大腿骨頭の形状は、ほぼ完全な球形をしており、大腿骨頭の曲率半径は寛骨臼の曲率半径に完全に適合している。加えて大腿骨頭の2/3は関節窩に収まり、その周囲は関節唇があり関節の安定性をさらに高めている。そのため正常ベースでみた場合、股関節の運動は大腿骨頭中心を軸とした回転運動である。しかし、大腿骨頭や寛骨臼蓋に形態異常がある場合、回転運動に加え、転がり運動や、すべり運動など正常から逸脱した複合運動となっている場合が少なくない。そこで、瞬時回旋軸（Instantaneous Axis of Rotation：以下、IAR）と呼ばれる手法を用いて、股関節機能障害を有する患者の股関節外転運動特性について述べる。さらに、関節形態異常を伴う場合の股関節接触面での関節応力の不均衡や、骨盤アライメントの違い（前傾、後傾位）による筋出力特性についても紹介する。

【全身的視点からみた股関節機能障害】

股関節機能障害を有する患者の異常歩行の1つとして、立脚初期の踵接地が不十分となり、全足底で接地、または趾先から接地するような歩様を示す場合がある。井原は二足歩行において足部は唯一直接地面に接する部分であり、ここでの情報が下肢の機能的運動連鎖の引き金的作用として重要であると述べている。そこで、股関節障害を有する患者の歩行時立脚初期における踵接地不全が引き起こす障害特性について、力学的視点（関節モーメント、関節パワー、そしてセグメントトルクパワー等）から紹介する。さらに、筋電図学的視点からも踵接地歩行と全接地歩行でどのような違いがあるのかデータを供覧しながら紹介する。

運動器障害に対する理学療法の評価・アプローチ

北海道社会事業協会 富良野病院 リハビリテーション科

千葉 恒

【はじめに】

私は地域の一般総合病院（255床）に勤務する臨床一筋の17年目の理学療法士である。シンポジストの大役を務めさせて頂くことに大変恐縮しているが、臨床家として、これまで実践してきた運動器障害に対する理学療法評価・アプローチについて、症例を供覧しながら述べてみたい。また、私はこれまで主に成人脊柱変形に関する研究に取り組んできた。研究方法や統計解析の知識が不十分な臨床家が、研究に取り組むことになったきっかけ、そして、失敗を乗り越えながらどのように研究を継続してきたのかもお伝えできれば幸いである。

【臨床】

私の勤務地である北海道富良野市の高齢化率は31.5%（2017年6月現在）に達しており、当院理学療法のオーダーも高齢者の疾患が多い。実際に評価・アプローチを行うにあたり、どのような臨床思考過程を辿るだろうか？ 患者の訴えや症状を聞きながら、現象を捉え、仮説を立て検証していく、この一連の作業が理学療法評価であり、そこから抽出された問題点を解決する手段として様々なアプローチを展開していく。この臨床思考過程こそが、障害ベースを考慮した理学療法の提供につながるのではないだろうか。しかし、臨床現場における運動器疾患患者の多くは、理学療法について身体機能に対する訓練というイメージを抱く傾向が強いように感じる。特に患者が高齢者の場合、二次障害予防を含めた患者教育、在宅生活を想定した福祉用具や住宅改修に関する情報提供、介護保険などの関連諸制度など、身体機能面以外の役割については、患者サイドも治療者サイドも必ずしも認識が十分であるとは言えない。特に高齢者の運動器疾患に関わる理学療法士は、患者およびその家族と意思疎通を十分に図り、身体機能面以外の潜在的なニーズも見出し、そのニーズへの対応策を考え、より良いケアにつなげていくことが求められる。

【研究】

内山は、高齢者の健康寿命延伸を実現する目標として、「予防」と「参加」を挙げている。予防には健康増進、疾病予防、障害予防、再発予防、介護予防が含まれる。高齢者の参加を高めることは、予防を促進することにもつながる。理学療法士には、個々人の予防と参加を高めることが期待されている。そこで、我々が健康増進、疾病予防の一環としてこれまで取り組んできた「腰曲がり予防教室」、疫学研究として整形外科医と共同で実施している「一般住民脊柱検診」、三次元動作分析装置を用いた腰部変性後弯症の「ケーススタディ」、そして平均34年間のフォローアップから脊柱骨盤矢状面アライメントがどのように変化するかを調査した「富良野長期研究」などについて紹介する。

第5回 日本運動器理学療法学会学術大会 組織

大会 長：対馬 栄輝（弘前大学 大学院 保健学研究科）

副大会 長：山崎 肇

準備委員長：石田 和宏（我汝会えにわ病院リハビリテーション科）

大会準備委員：石田 水里（鳴海病院 リハビリテーション部）
佐藤 史子（羊ヶ丘病院 リハビリテーション科）
小玉 裕治（我汝会えにわ病院リハビリテーション科）
家入 章（我汝会えにわ病院リハビリテーション科）
宮城島一史（我汝会えにわ病院リハビリテーション科）
大村 恒太（我汝会えにわ病院リハビリテーション科）
橋田 浩（北海道文教大学 人間科学部 理学療法学科）